

宇都宮大学
留学生・国際交流センター年報
2021 年度

2022 年 11 月

宇都宮大学留学生・国際交流センター
Center for International Exchange
Utsunomiya University

目次

センター長挨拶

留学生・国際交流センター長 横尾 昇剛	3
---------------------	---

留学生・国際交流センター年報 2021 年度

I 留学生・国際交流センターの概要

1 沿革・使命	9
2 組織	10
3 年間行事	11
4 特記事項「新型コロナウイルス感染症への対応」	13

II 留学生・国際交流センターの活動

1 教育・授業

1.1 留学生・国際交流センター開講授業	19
(1) 初級日本語科目	
(2) 中級日本語短期留学プログラム	
1.2 基盤教育および学部・大学院での授業	21
1.3 日本語・日本文化研修留学生プログラム	23
1.4 大学の世界展開力強化事業「アフリカ諸国との大学間交流形成支援」	25
1.5 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム	29

2 相談体制・生活支援

2.1 基本的認識	32
2.2 相談体制	32
2.3 相談実績	33
2.4 支援活動	33
2.5 各種オリエンテーション	34

3 留学生交流支援

3.1 栃木県地域留学生交流推進協議会	36
3.2 交流支援事業	37
3.3 小・中・高等学校での国際交流	37

4 留学生の獲得施策

4.1 JASSO 主催日本留学オンラインフェア	38
4.2 日本語学校等を会場とした外国人学生のための進学説明会	39
4.3 「大学の世界展開力強化事業」による他大学主催の留学フェア	40
4.4 JICA 主催留学フェア	41
4.5 交換留学生のための大学院進学説明会	43

5	日本人学生の海外派遣留学の推進・支援	
5.1	海外留学説明会	44
5.2	国際インターンシップ	45
5.3	海外渡航前危機管理オリエンテーション	46
5.4	海外英語研修	47
5.5	海外渡航危機管理サービス	50
6	各種協議会等への参加	
6.1	令和3年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議	51
6.2	令和3年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会	52
6.3	令和3年度国立大学法人留学生センター等留学生指導研究協議会	52
6.4	2021年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会 (兼第55回大阪大学留学生教育・支援協議会)	53
6.5	令和3年度日本語・日本文化研修留学生問題に関する検討会	54

Ⅲ 資料

1	留学生在籍状況	
(1)	留学生種別在籍者数	57
(2)	国・地域別留学生数	57
2	国際交流協定校との受入・派遣状況一覧	
(1)	大学間交流協定校との学生派遣・受入実績	58
(2)	部局間交流協定校との学生派遣・受入実績	59
(3)	留学生数の推移	61
(4)	栃木県内高等教育機関に在籍の外国人留学生数の推移	61
3	留学生・国際交流センターの発行物	62

<センター長挨拶>



留学生・国際交流センター長 横尾 昇剛

新型コロナウイルス感染症の流行が続く中、大学の国際交流に関する取り組みは限定的な状況が続いていますが、ポストコロナの状況を見据え、試行錯誤しながら活動を再開しはじめています。

留学生受け入れについては、水際対策の強化が続く中、2021年11月に水際対策が緩和されたものの、オミクロン株の流行により再び水際対策が強化されるなど、入国が難しく、交換留学、私費留学については、オンライン授業での対応となっています。国費留学生については優先的な入国が認められ、2021年6月に、2020年度採用の「日本語・日本文化研修留学生（日研生）」2名、「研究留学生」1名が入国し、11月の水際対策緩和時に2021年度採用「日研生」1名、「研究留学生」2名が入国することができました。11月末に再び水際対策が強化された後、2022年3月に緩和され、3月に2021年度採用の「日研生」2名、「研究留学生」1名が入国することが出来ました。

日本人学生の派遣については、当初より海外渡航は不可の状況が続いていましたが、2021年6月に文部科学省からの交換留学についての通知に基づき、交換留学に限ったかたちで海外渡航が再開され、2021年8月～2023年2月にかけて、計11名が渡航しています。少しずつですが、状況の好転が見え始めています。

このような制約がある中、国際プログラムの推進、海外英語研修、国際インターンシップなどを学内外、国内外の関係者の協力を得ながら実施しています。

「大学の世界展開力強化事業：アフリカの潜在力と日本の科学技術融合によるSDGs貢献人材育成プログラム」は、アフリカの6大学の参加を得て、留国センターの教職員をはじめ、国際学部および農学部の教員が協働して行われています。アフリカの教員との月例会議、授業、連続シンポジウム、学生サミットなどがオンラインで実施されています。次年度の実渡航に向けた準備を進めており、アフリカからの教員と学生の来日、日本人の教員と学生のアフリカへの派遣などが実現することが期待されています。

国費外国人留学生の優先配置特別プログラム「多様な地域創生に資する工農イノベーション人材育成プログラム」は、東南アジアからの国費外国人留学生と私費外国人留学生および日本人学生が共修する特別プログラムです。このプログラムでは留学生と日本人学生が「SDGsセミナー」において授業や実習を共に交流しながら学んでおり、キャンパス内での国際的な共修の機会となっています。

その他、昨年度に引き続き、マレーシアのサラワク大学での海外英語研修をはじめ、マレーシアの旅行会社 Insar Tours & Travel や台北城市科技大学日本語コースでの国際インターンシップ研修をオンライン形式で実施しました。

また本学学生の自主的な活動組織である留学生サポーターによる来日留学生のための交流イベントなどが再開されつつあります。

まだまだ海外からの受け入れ、海外渡航について見通しが不透明ですが、新型コロナウイルス感染症状況の変化に柔軟に対応しながら、地域デザイン科学部、国際学部、教育学部、工学部、農学部、地域創生科学研究科の協力教員、そして学内外の多様な関係者と連携・協力しながら宇都宮大学における留学生と日本人学生の国際的な共修を推進しています。

2022年3月 吉日

宇都宮大学
留学生・国際交流センター一年報
2021 年度

2022 年 11 月

宇都宮大学留学生・国際交流センター

Center for International Exchange
Utsunomiya University

I 留学生・国際交流センターの概要



1 沿革・使命

宇都宮大学に在籍する外国人留学生は、正規生（学部学生及び大学院学生）及び非正規生（交換留学生、研究生及び日本語・日本文化研修留学生等）合わせて、令和3（2021）年10月現在では、世界21カ国から270名の留学生が学んでいる。

留学生・国際交流センター（以下、「センター」という。）は、当初外国人留学生に対し、必要な日本語・日本事情教育及び修学・生活上の指導助言を行うとともに、留学生と地域との交流の推進や海外留学を希望する学生に対する指導助言を行うことを目的として、平成14（2002）年4月に留学生センターとして設置された。

その後、平成24（2012）年4月に「センター」へ改組し、それまでの「日本語教育運営部門」と「留学生指導・相談部門」の2部門に、「国際交流推進部門」を新たな部門として設置して3部門とし、国際交流のより積極的に具体的な業務展開を推進することとした。さらに、平成29（2017）年4月に部門制を廃止し、新たな体制として各学部等の協力教員を加え、各学部等との連携を強化した。

センターには、センター長、専任教員2名（うち1名は副センター長）、センター協力教員7名、コーディネーター1名、また事務体制として留学生・国際交流センター事務室が配置され、教育、相談指導、交流事業等の業務に当たっている。2020年度以降、COVID-19の拡大防止のためセンター主催事業等を多くが中止またはオンラインやハイブリッドでの実施となっている。センターが例年実施している業務の主な内容は次のとおりである。

1.1 日本語の授業

「センター」では、研究・交流の場や日常生活の中で円滑な意思疎通が行えるように、留学生にさまざまな学習の機会を用意している。日本語の授業は、初級から上級までをカバーし、日本語のコミュニケーション技能と、日本語で行われる学術・研究活動での表現力の向上を目指すものである。現在、全留学生を対象としたカリキュラムとともに、学部留学生や国費留学生（研究留学生、教員研修留学生、日本語・日本文化研修留学生）を対象とした授業を行っている。

1.2 相談指導

相談指導担当の教員が、修学上や生活の中で生じた問題について、留学生と話し合い、適切な助言を与えている。また、留学生、チューター指導教員の間で連携をとることにより、必要ときに適切な支援ができるシステムづくりを目指している。

1.3 交流事業

「センター」は、留学生と地域社会との充実した交流プログラムづくりに努めている。地元の国際交流団体やボランティアグループと連携し、地域住民とのホームステイ体験事業を行っている。同時に多彩な文化交流活動を通じて、留学生と日本人学生の相互理解を深め異なる文化をお互いに尊敬する態度を養っている。

1.4 留学生・国際交流センター事務室

平成31（2019）年4月に事務組織改編により、学務部が改組され、留学生・国際交流課は留学生・国際交流センター事務室として、「センター」直属の事務組織となった。事務室は、学生及び教員の国際交流に関する様々な業務及びセンター運営にかかる事務も担当し、留学生が安心して勉学に専念できるよう、以下のような修学上・生活上の支援業務を行っている。

①奨学金に関すること

- ②国際交流会館の入退居に関すること
- ③海外留学に関すること
- ④留学生のチューターに関すること
- ⑤地域交流事業についての情報提供に関すること

2 組織

2.1 「センター」及び「センター」事務室の構成（令和4（2022）年3月1日現在）

留学生・国際交流センター教員		留学生・国際交流センター事務室	
センター長（農学部教授兼任）	横尾昇剛	事務室長	田崎正憲
教授（副センター長）	湯本浩之	国際交流企画係長	神戸幸
助教	飯塚明子	留学生係長	古橋礼子
特命教授／コーディネーター	夏秋知英	留学生主任	石川香緒里
協力教員	地域デザイン科学部 准教授	係員	小川麻友
	地域デザイン科学部 助教	事務補佐員	山本浩之
	国際学部 教授	事務補佐員	大坪里紗
	国際学部 准教授	事務補佐員	ナイト志保
	教育学部 准教授	事務補佐員	古内智美
	工学部 教授	事務補佐員	アブナー 絵理
	農学部 准教授		
		国際インターンシップ事務室	
		コーディネーター	中道利久

<非常勤講師>

〔日本語教育〕 石川 美和 八重島 炎 石 文君 澤村 真由美
 〔Learning+1〕 児島 建彦

2.2 専任教員の所属委員会等（全学・学部・研究科）

「センター」の専任教員2名が所属する全学および学部・研究科の教授会・委員会・ワーキンググループ（WG）等は以下の通りである。

教員名	全学	学部・研究科
湯本浩之 （教授）	学務委員会（委員） 世界展開力強化事業推進室（室員） 国際インターンシップWG（G員） SDGs-WG（G員） 工農イノベーション人材育成プログラムWG（G員）	教授会（国際学部） 国際キャリア教育委員会（国際学部・委員） グローバル・エリアスタディーズ・プログラム 会議（地域創生科学研究科）
飯塚明子 （助教）	学術国際委員会（オブザーバー） 留学生専門委員会（委員） 就職・キャリア支援委員会（委員） 世界展開力強化事業推進室（室員） 国際インターンシップWG（G員） SDGs-WG（G員） 工農イノベーション人材育成プログラムWG（G員）	教授会（国際学部） 国際キャリア教育委員会（国際学部・委員） グローバル・エリアスタディーズ・プログラム 会議（地域創生科学研究科）



3 年間行事

< 4 月 >

21 日（水）令和 3 年度留学生支援事業に関する担当者会議（主催：栃木県国際交流協会）

< 5 月 >

19 日（水）令和 2 年度春期国際インターンシップ報告会及び令和 3 年度夏期実施概要説明会

29 日（土）令和 3 年度新規外国人留学生のためのガイダンス

（主催：栃木県国際交流協会、栃木県地域留学生交流推進協議会、オンライン開催）

< 6 月 >

1 日（火）～ 30 日（水）外国人留学生のための就職ガイダンス「日本での就職活動の方法と準備」

（主催：宇都宮大学就職・キャリア支援センター）※オンライン配信

18 日（金）第 33 回栃木県地域留学生交流推進協議会総会（主催：栃木県地域留学生交流推進協議会）

※ オンライン開催、令和 3 年度留学生との交流会は中止

24 日（木）ONLINE 進学フェア@国書日本語学校

29 日（火）交換留学説明会及び留学体験説明会（オンライン）

30 日（水）～ 7 月 2 日（金）グローバル人材を対象とした『合同企業説明会（オンライン）』

（主催：栃木県、栃木県国際交流協会）

< 7 月 >

5 日（月）2021 年度国立大学法人留学生センター等留学生指導研究協議会 ※ オンライン開催

25 日（日）とちぎインターンシップフェア 2021（主催：栃木県）

< 8 月 >

○ 2021 年度夏期国際インターンシップ（オンライン）

3 日（火）「日本語・日本文化研修留学生」修了レポート発表会

3 日（火）国公立大学 ONLINE 進学フェア for 長沼スクール

27 日（金）日本留学海外拠点連携推進事業（サブサハラ・アフリカ）

主催令和 3 年度オンライン日本留学フェア（大学院文系）

< 9 月 >

10 日（金）（JASSO 主催）令和 3 年度留学生交流実務担当教職員養成プログラム（オンライン）

10 日（金）日本留学海外拠点連携推進事業（サブサハラ・アフリカ）

主催令和 3 年度オンライン日本留学フェア（大学院理系）

12 日（日）2021 年度 JASSO 主催日本留学オンラインフェア（日本語）

27 日（月）～ 30（木）令和 3（2021）年度交換留学フェア（オンライン）

令和 4 (2022) 年度 交換留学生募集



◆派遣期間：
2022年8月以降（1学期間または2学期間）
※新型コロナウイルス感染症等の状況によっては、派遣が中止となる場合や、日本からのオンライン受講のみとなる場合があります。予めご了承ください。

◆応募締切：2021年10月20日（水）
（※期限厳守）

◆詳細については、留学生・国際交流センター公式ウェブサイトに掲載中の募集要項を確認してください。

◆問い合わせ先：
留学生・国際交流センター事務局
電話 028-649-8167
メール exchange@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp



留学生・国際交流センター
公式ウェブサイト

< 10 月 >

- 22 日 (金) 令和 3 年度春期海外英語研修
(マレーシア・サラワク大学) 説明会
- 22 日 (金) ~ 24 日 (日) 2021 年度 JICA 主催日本留学フェア (カンボジア)
- 23 日 (土) とちぎ多文化共生フォーラム
(主催: 栃木県、栃木県国際交流協会)
- 27 日 (水) 2021 年度 JICA 主催日本留学フェア (ラオス)
- 29 日 (金) 東京外国語大学留学生日本語教育センター大学進学説明 (オンライン)

< 11 月 >

- 10 日 (金) 令和 3 年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議
(主催: 佐賀大学) ※メール会議
- 17 日 (水) 令和 3 年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会 ※ オンライン開催
- 19 日 (金) 令和 3 年度日本語・日本文化研修留学生問題に関する検討会議
(主催: 大阪大学) ※ハイフレックス開催
- 25 日 (木) グローバル人材を対象とした合同企業説明会 (県内)
(主催: 栃木県、栃木県国際交流協会)

< 12 月 >

- 2 日 (木) 令和 3 年度留学生指導教員及び事務担当者研修会
(主催: 栃木県地域留学生交流推進協議会) ※オンライン開催
- 10 日 (金) 令和 3 年度夏期国際インターンシップ報告会及び令和 3 年度春期説明 ※ オンライン開催

< 2 月 >

- 9 日 (水) 令和 3 年度後期中級日本語短期プログラム修了発表会
※オンライン開催
- 10 日 (木) 2021 年度第 2 回国立大学法人留学生指導研究協議会
(兼: 第 55 回大阪大学留学生教育・支援協議会)
※オンライン開催
- 14 日 (月) ~ 19 日 (土) 令和 3 年度春期海外英語研修
(マレーシア・サラワク大学) ※オンライン開催

< 3 月 >

- 令和 3 年度春期国際インターンシップ
- 4 日 (金) 留学生 × 日本人学生交流会@ Zoom
- 15 日 (金) 第 45 回栃木県地域留学生交流推進協議会運営委員会
(主催: 栃木県地域留学生交流推進協議会) ※メール会議
- 11 日 (金) 令和 3 年度春期海外英語研修 (マレーシア・サラワク大学) 報告会



オンライン 海外英語研修プログラム MALAYSIA

参加者募集中!!

募集期間 令和3年10月22日(金) ~ 11月8日(月)

募集人数 30名程度

募集対象 学部1年次~4年次、大学既生

申請書類 <https://intl.utsunomiya-u.ac.jp/study/study08.php>

提出先 studytour@enya.jm.utsunomiya-u.ac.jp 留学生・国際交流センター事務局

宇都宮大学では、コロナ禍の国際交流の一環として、協定校のマレーシア・サラワク大学(国立総合大学の一つ)と英語研修プログラムを実施します。

ASEAN、イオリア連邦の一員である多民族国家のマレーシアのサラワク州では、第2公用語として英語が使用されています。熱帯の自然環境がなまなま目に広がるサラワク大学の学生や先生と共に、オンラインで英語研修をぜひ国際交流をすすめることができます。

研修日程 令和3年2月14日(月) ~ 令和4年2月19日(土)
12月10日、12月17日、1月23日、2月10日(全5回研修、3月11日に事後報告会を行う予定)

時間 9:30 ~ 16:30

使用媒体 オンライン (Zoom使用) のみ。オンライン研修に専念できるよう配慮いたします。

研修内容 英語研修、現地による現地での研修、現地による文化体験、オフサイトの観光

研修料 宇都宮大学旅行プログラム、サラワク大学受講料にオンライン受講料が加算される
研修料、サラワク大学の滞在費(研修)、交通費、学費(授業料)は別途お支払いください

研修先 国際交流センター(仮設)

研修先 地域文化科学部、外国語学部、工学部、農学部、国際英語研修
(4年生、大学院生、及び、国際大学の海外研修生は1名まで対象)

研修料 約200万円(最大2万円以内の研修生負担)

お問い合わせ: 留学生・国際交流センター事務局
E-mail: studytour@enya.jm.utsunomiya-u.ac.jp Tel: 028-649-5100



e - EduTour Debriefing Session

11 March 2022
3:00pm-5:00pm (JT)
2:00pm-4:00pm (MT)
オンライン ZOOM PROGRAM (JAPAN TIME)

15:00 Opening Address
Prof. Dr. Tetsuro Ohno

15:05 Debriefing of the e-EduTour program 2022 by UU professor
Assoc. Prof. Dr. Tetsuro Ohno

15:10 Presentation Session by UU students (15min/group)
Prof. Dr. Yuki YAMAGI

Group 1 『SDGs1&4 Gender Equality Of Education』
Kaori ETO, Haru KATO, Ryoji TAKASE, Hiroko AWA, Heiko KATO

Group 2 『No hunger project in Japan』
Moeimi YOSHINO, Ryoji SEINO, Riku OZAWA, Kazuki ITO, Ryunosuke KATO

Group 3 『Equality of education and child labor』
Haruka KATO, Shiroku FUKUCHI, Masato KUROKI, An FURUBUCHI, Chie TEIKAWA

Group 4 『Education Quality』
Miku HIRABARA, Kenji SUDO, Yui SATO, Jun MOTOYA, Yuki SATO

Group 5 『SDGs13 Climate Change (Action)』
Maki MIZUNAWA, Koki WAKAYABE, Sumire HIRABARA, Hayato KOTARE

Group 6 『SDG 4 Quality Education』
Yuki SUDO, Shinya OHNO, Yuki YAMAGI, Ryouma SATO

16:40 Feedback comments from UU and UNIMAS professors

16:55 Closing Address
Professor Prof. Dr. Takashi NEDA

参加は無料です。お申し込みは、留学生・国際交流センターまで
お申し込みは、必ずお名前を記載してください。

研修申込: studytour@enya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

e-EduTour 2022



4 特記事項「新型コロナウイルス感染症への対応」

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の流行により、2020（令和元）年度に続き日本政府及び各国が出入国制限を実施したため、オンライン留学にて交換留学を開始した。新入生ガイダンス等の対面での行事及び授業、学生のキャンパス入構は再開したが2021年度は変異株の大流行に伴って、日本全国各地で緊急事態宣言やまんえん防止等重点措置が発令される中、集団行動を伴う大学教育活動は、留学生教育に限らず感染拡大防止に柔軟な対応が迫られ続けた。本学では、学生をA日程・B日程と分けて、オンライン授業と対面授業を交互に受けさせてキャンパス内の滞在する学生数を減らし、座席定員を本来の半分として教室運用するなど、学生の授業やキャンパスでの課外体験の継続をはかった。学生指導は全学的に、ホームページや教務ポータル、メール、ZoomやTeamsなどのウェブ会議ソフト、学生ポータルやC-learningなどの学生向けグループウェア、従来のウェブサイトやFacebookや電子メールを用いることが主となった。

しかし、2021年2月から国民へのワクチン接種が、医療従事者・高齢者から徐々に進み、夏以降は現役や学生の世代も接種できた者が教育実習等受講者に並んで留学等希望者も増え、6月には在留資格を有する外国人学生の再入国と国費外国人留学生の新規入国が再開した。

当センターが開講する日本語科目は、交換留学生を受講者とするため、オンライン授業を主とし、対面授業は、日研生など2020年度以前に入国できていた若干の留学生を対象に留まった。

学外団体主催のホームステイなどの対面交流が不可欠な文化体験行事は、主催団体と相談の上で、感染症対策を講じたオンラインの催しを企画するものもあれば、2020年度に引き続き中止となったものもあった。

○当センター主催で、対象学生に対し個別にオンラインで指導や情報提供した行事

4月及び10月の国際交流会館入居説明会

新規来日留学生（学部留学生を除く）オリエンテーション

新規来日留学生生活上の留意事項説明会／新規来日留学生歓迎会国際交流会館退去説明会

海外留学渡航前危機管理オリエンテーション

海外留学説明会（6月）・交換留学フェア（10月）

○当センターからオンラインでオンデマンドに情報提供した行事

保護者向け留学情報説明会

学部新入生向け留学情報説明会

学部1年生及び編入留学生オリエンテーション

○当センター主催で中止した行事

夏期英語研修（オーストラリア・サザンクロス大学）

令和2年度交換留学生のための大学院進学説明会

外国人留学生と地域交流団体等との交流会

春期海外英語研修（カナダ・カピラノ大学）

○学外団体主催で中止となった行事

ホームステイウィークエンド in 那珂川（春：田植え）

（主催：那珂川国際交流事業企画運営委員会、那珂川町教育委員会）

外国人留学生ホームステイ受入事業（宇都宮市、主催：NPO法人宇都宮市国際交流協会）

外国人留学生との交流会（主催：栃木県地域留学生交流推進協議会）

国際交流の集い（副題：七夕の集い）（主催：栃木経済交友会）

トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム・地域人材コース壮行会

ホームステイウィークエンド in 那珂川（秋：稲刈り）

（主催：那珂川町教育委員会、那珂川国際交流事業企画運営委員会）

外国人留学生のための就活セミナー（主催：栃木労働局外国人留学生就職支援協議会、共催：宇都宮大学就職・キャリア支援センター）

外国人留学生合同企業説明会（主催：栃木労働局外国人留学生就職支援協議会、共催：宇都宮大学就職・キャリア支援センター）

○国際的な人の往来の経過

< 2020 年 [参考] >

8 月 5 日 再入国許可を有する外国人留学生等の再入国再開

※一時帰国していた在学生の再入国や国費留学生の新規入国再開

10 月 1 日 国際的な人の往来の再開（ビジネス上必要な人材、留学、家族滞在等の新規入国許可）

12 月 28 日 全ての新規入国を一時停止

< 2021 年 >

1 月 21 日 国費留学生の新規入国停止（留学を理由とする入国がすべて一時停止）

6 月 国費留学生のうち希望する者の新規入国を再開

7～8 月上旬 留学生等の入国停止（東京五輪のため）

8 月 18 日 国費留学生の新規入国再開

11 月 30 日 オミクロン株に対する水際措置の強化（12 月 31 日まで外国人の新規入国停止）

12 月 26 日 水際対策強化に係る新たな措置 公表

※外国人・日本人を問わず全ての入国者に対し、出国前72時間以内の検査証明の提出、入国時の検査を開始

< 2022 年 >

1 月 13 日 水際対策強化に係る新たな措置

※レジデンス・トラックの運用が一時停止

※私費留学生の新規入国も一時停止（国費留学生は継続）

2 月 24 日 水際対策強化に係る新たな措置

受入責任者が行動管理等に責任を持つことを前提に、3月1日以降外国人の新規入国が緩和
出発国やワクチン接種証明の有無により、入国時の隔離期間が変化

5 月 20 日 水際対策強化に係る新たな措置

※6月1日から適用、より措置が緩和

※出発国により入国時の検査免除、ワクチン接種の有無により隔離期間短縮

○日本国内の感染症流行状況及びワクチン普及状況

< 2021 年 >

2 月 3 日 新型コロナ死者 全国で 6,000 人超え

2 月 17 日 医療従事者約 4 万人を対象に国内でワクチン先行接種始まる

4 月～5 月 まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が、全国の都道府県で次々に適用される

（大阪、兵庫、宮城、東京、京都、愛知、福岡、北海道、岐阜、三重、沖縄、岡山、広島）

6 月 21 日 ワクチンの職域接種開始

※一部の大学でも接種可能になり教育実習や留学を控えた学生等を中心に接種が進んだ。

7 月～9 月 まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が全国の都道府県で次々に適用や延長される。

(東京、沖縄、埼玉、千葉、神奈川、大阪、北海道、愛知、京都、兵庫、福岡、石川、京都、福岡、茨城、栃木、群馬、静岡、宮城、岐阜、三重、滋賀、岡山、広島、高知、佐賀、長崎、宮崎)

- 7月23日 東京五輪開幕
- 8月12日 ワクチン2回接種 日本の人口の50%超に
- 9月30日 緊急事態宣言・まん延防止等重点措置が全て解除
- 12月1日 ワクチン3回目接種開始

(学務部学生支援課留学生・国際交流室)

Ⅱ 留学生・国際交流センターの活動



1 教育・授業

1.1 留学生・国際交流センター開講授業

(1) 初級日本語補習

平成30(2018)年度より従来の初級日本語補習に代えて、単位の取得を可能とする正規科目として以下のような初級日本語科目を開講している。本科目は、本学および本学各学部が交流協定を結んでいる海外の大学からの交換留学生や研究留学生などを対象としたものである。本プログラムを通して、日本語の基本的な文法や語彙、表現を学びながら、聞くことや話すことを総合的に学び、日本語運用能力の向上を目的とするものである。

	科目名	コマ/週	単位	担当教員	受講学生
前期	初級日本語ⅠA 聴解・口頭表現①	2	2	石川	特別聴講学生(日研究生・交換留学生・短期留学生など) 大学院生
	初級日本語ⅡA 文法・語彙②	2	2	石	
	初級日本語ⅡA 聴解・口頭表現②	2	2	石	
	初級日本語ⅠB 文法・語彙①	2	2	石川	
後期	初級日本語ⅠB 聴解・口頭表現①	2	2	石川	研究留学生
	初級日本語ⅡB 文法・語彙②	2	2	石	教員研修生
	初級日本語ⅡB 聴解・口頭表現②	2	2	石	研究生
	初級日本語ⅡB 聴解・口頭表現②	2	2	八重島	

(2) 中級日本語短期留学プログラム

1) これまでの経緯

留学生・国際交流センターでは、平成20(2008)年4月から、「宇都宮大学中級日本語短期留学プログラム」(以下、本「プログラム」)を実施してきている。本「プログラム」は、本学および本学各学部と交流協定を締結している海外の大学から派遣された留学生を対象とした留学プログラムである。

海外の交流協定提携校から本学に派遣された外国人留学生は、日本語能力が非常に限られており、その中には、中級日本語の授業を受講できるレベル(日本語検定試験3級くらいのレベルで、日常生活面においては、簡単な買い物ができ、自分で電車に乗られるくらいのレベル)の学生が多かった。これらの留学生は、各学部等で提供されている日本人学生向けの授業を受講することは非常に困難であることから、これらの留学生のニーズに答えるため、検討を重ねた結果、交流協定を結んでいる海外の大学からの留学生を対象とする本「プログラム」を実施することになった。

2) 目的

本「プログラム」は、本学における日本語教育、日本文化等の授業科目を提供するための教育プログラムである。本「プログラム」を通じて、日本語能力を向上させるとともに、日本社会や日本文化に対する理解を深めるとともに、その良き理解者としてのみならず国際社会で活躍できる人材を育成することを目的に、本学での日本語教育、日本文化体験および本学の学生・教職員との交流等を実施するものである。

3) 対象者

本「プログラム」に出願できる者は、以下の2つの要件をすべて満たしたものである。なお、留学生・国際交流センター長が特別に許可する者については、その限りではない。

- ①特別聴講学生(本学および本学各学部と学生交流協定を結んでいる海外の大学の正規課程に在籍している学部学生又は大学院学生)。
- ②渡日前に300時間程度の日本語教育を受けている学生、あるいは(財)日本国際教育支援協会が実施する日本語能力試験3級に合格している学生。

4) 受入れ期間

原則として、10月からの1年間、または4月からの半年間とする。

5) 受入人数

毎年10名～15名程度を予定する。

なお、令和3(2021)年度はコロナ禍の影響により、受入人数は1名のみであった。また、日本への渡航ができず、各授業等の受講はすべてオンラインでの実施となった。

6) 修了要件

- ① 1年間のコースでは、年間10科目以上を履修し、かつ単位を取得すること。ただし、「短期留学プログラム」のコア日本語科目の中から6科目以上を履修すること。なお、学生の日本語能力によって、基盤教育科目又は国際学部で開講する日本語科目(上級レベル)を用いて代えることができる。
- ② 半年間のコースでは、半期で5科目以上を履修し、かつ単位を取得すること。ただし、「短期留学プログラム」のコア日本語科目の中から3科目以上を履修すること。なお、学生の日本語能力によって、基盤教育科目又は国際学部で開講する日本語科目(上級レベル)を用いて代えることができる。
- ③ 自主研究レポートを提出すること。

7) 令和3年(2021)度中級日本語科目

	科目の種類	科目名	単位	担当教員
前期	コア日本語科目	中級日本語IA文法	2	八重島
		中級日本語IA読解	2	石川
		中級日本語IA作文	2	澤村
		中級日本語IA聴解と会話	2	八重島
		中級日本語II 漢字と漢字文化	2	澤村
		中級日本語II 中級会話A	2	(本年度不開講)
		中級日本語II 中級作文A	2	八重島
		中級日本語II 中級文法A	2	八重島
		中級日本語II 中級聴解A	2	石
		中級日本語II 中級読解A	2	石川
		中級日本語II 中級総合I	2	石
	演習科目(必修)	短期留学生特別演習A	2	戚
	基盤教育・国際学部の日本語科目	人文社会系のための専門日本語	1	基盤教育科目 (本年度不開講)
その他	各自の専門分野に関連する基盤教育及び各学部の開講科目	*		
後期	コア日本語科目	中級日本語IB文法	2	八重島
		中級日本語IB読解	2	澤村
		中級日本語IB作文	2	八重島
		中級日本語IB聴解と会話	2	石
		中級日本語II 中級漢字	2	石川
		中級日本語II 中級会話B	2	石
		中級日本語II 中級作文B	2	石川
		中級日本語II 中級文法B	2	八重島
		中級日本語II 中級聴解B	2	澤村
		中級日本語II 中級読解B	2	八重島
		演習科目(必修)	短期留学生特別演習B	2
	その他	各自の専門分野に関連する基盤教育及び各学部の開講科目	*	

8) 自主研究

「短期留学生特別演習 A・B」を履修する留学生は担当教員と相談した上で研究テーマを決める。さらに、担当教員の指導のもと、研究成果をまとめたレポートを修了時に提出する。

9) 成績評価・単位認定

この教育プログラムの受講生に対して、履修した授業科目、成績評価および単位数を記載した成績書を発行する（ただし、留学センター開講科目については留学生センター長名で発行する）。本学の発行した成績書に基づき、留学生を派遣した大学において単位認定が行われる。但し、学位取得に関する単位として認定するか否かの判断は留学生を派遣した大学に委ねる。

10) 令和3（2021）年度「中級日本語短期留学プログラム」修了者

本年度の本「プログラム」への修了者は、コロナ禍の影響により渡日が困難であったことから、以下の1名のみであった。

氏名	国籍	派遣元大学	コース
ZOU ZHUORAN（鄒卓然）	中国	寧波大学	1年間

11) 「中級日本語短期留学プログラム」修了発表会

本年度の修了発表会を以下の通り実施した。

<実施概要>

日時：令和4（2022）年2月9日（水）15時00分～

場所：オンライン（Zoom）

発表者：ZOU ZHUORAN（鄒卓然）

発表テーマ：「中学校国語教材でみる中日伝統文化教育」

担当教員：戚傑（国際学部教授）

（湯本）

1.2 基盤教育および学部・大学院での授業

留学生・国際交流センターの教員名は、基盤教育センターや国際学部をはじめ、全学科目である Learning+1 や大学院（地域創生科学研究科）などの授業科目を担当している。令和3（2021）年度にセンター所属の専任教員2名および非常勤講師1名が開講した授業科目は以下の通りである。

なお、当初は全学科目の Learning+1 の英語講科目として開講された「Globalization and Society」、「Risk Management」および「International Political Economy」は、それぞれ同じ講義内容で複数の学部の専門科目やとちぎグローバル人材育成プログラム共通科目などとしても同時開講されている。

(1) 基盤教育センター

学期	科目名	担当教員	備考
前期	災害に強いコミュニティづくり	飯塚	
	3.11 学問の不確かさ	清水	第12回を担当（飯塚）
後期	SDGs 入門	重田他	第8回（4コマ）を担当（湯本）

(2) 国際学部（専門科目）

学期	科目名	担当教員	備考
前期	グローバル教育論	湯本	
	国際協力研究演習 F（グローバル教育論演習）	湯本	
	国際共生研究演習 G（Disaster Studies 演習）	飯塚	
	卒業研究 I	湯本	
	卒業研究 I	飯塚	
後期	Disaster Studies	飯塚	英語開講科目
	外国語臨地演習（英語）※ サラワク大学	出羽	飯塚（協力教員）
	卒業研究準備演習	湯本	飯塚（協力教員）
	卒業研究準備演習	飯塚	
	卒業研究 II	湯本	
	卒業研究 II	飯塚	
集中	国際キャリア教育	重田他 1 名	全体会を担当（湯本）
	International Career Seminar	栗原他 2 名	飯塚（分科会 B）
	Globalization and Society	湯本	英語開講科目（本年度不開講）
	Risk Management	飯塚	英語開講科目
	International Political Economy	兒島	英語開講科目
	International Political Economy	兒島	英語開講科目

(3) 全学科目（Learning+1）

学期	科目名	担当教員	備考
集中	国際インターンシップ	湯本・飯塚他	単位は各学部で振り替え
	Globalization and Society	湯本	英語開講科目（本年度不開講）
	Risk Management	飯塚	英語開講科目
	International Political Economics	兒島	英語開講科目

(4) とちぎグローバル人材育成プログラム共通科目

学期	科目名	担当教員	備考
集中	Globalization and Society	湯本	英語開講科目（本年度不開講）
	Risk Management	飯塚	英語開講科目

(5) 地域創生科学研究科・修士課程（社会デザイン科学専攻）

学期	科目名	担当教員	備考
後期	グローバル教育と開発教育 I・II	湯本	グローバル・エリアスタディーズ・プログラム
	防災と国際協力 I・II	飯塚	グローバル・エリアスタディーズ・プログラム
集中	Globalization and Society	湯本	地域創生リテラシー科目
	International Political Economics	兒島	地域創生リテラシー科目

(6) 地域創生科学研究科・博士後期課程（先端融合科学専攻）

学期	科目名	担当教員	備考
後期	グローバル教育・開発教育特論	湯本	グローバル地域デザイン・プログラム

（湯本・飯塚）



1.3 日本語・日本文化研修留学生プログラム

留学生・国際交流センターでは旧称「留学生センター」として発足以来、文部科学省の国費留学生である「日本語・日本文化研修留学生」（略称「日研生」）を毎年受け入れている。

日研生は10月に来日後、必修科目4科目、および基盤教育科目、各学部専門科目、留学生・国際交流センター科目の中から自分の研修テーマに関連する選択科目12科目の合計16科目を履修する。そして、日本語能力の向上と日本文化に関する専門知識の深化を図るとともに、担当教員や指導教員の下で研修を進め、帰国までにその成果を研修レポートとして提出する。

(1) 授業科目

科目種別	学期	授業科目名	単位数	開講部局
必修科目 (4科目)	前期 (※1)	日本語・日本文化Ⅱ	2	留国センター
		日研生特別研究Ⅱ	2	留国センター
	後期 (※2)	日本語・日本文化Ⅰ	2	留国センター
		日研生特別研究Ⅰ	2	留国センター
選択科目 (12科目)	上級レベル日本語 科目	日本語アカデミック・リーディングⅡ	1	基盤教育
		日本語アカデミック・プレゼンテーション	1	基盤教育
		科学技術のための専門日本語	1	基盤教育
		人文社会系のための専門日本語	1	基盤教育
	言語・日本文化関 連の科目	Japanese Communication Arts	2	基盤教育
		Globalization and Society	2	国際学部
		グローバル教育論	2	国際学部
		移民と多文化教育	2	国際学部
		多言語コミュニケーション学A	2	基盤教育
		多言語コミュニケーション学B	2	基盤教育
		日本語論	2	国際学部
		日本語史	2	国際学部
		言語比較論	2	国際学部
		日本文化論A	2	国際学部
		多文化共生コアB(異文化間コミュニケーション)	2	国際学部
		日本文学概説A	2	共同教育学部

※1 前期：令和元年度（2019/2020）日研生対象

※2 後期：令和2年度（2020/2021）日研生対象

(2) 令和2（2020）年度日本語・日本文化研修留学生学外研修

本年度はコロナ禍の影響により、日研生プログラムの多くはオンラインでの実施となった。2020年10月に来日予定であった3名の日研生については、2名は2021年7月に来日し、1名は来日することが適わなかった。来日した2名を対象に、主に日本や栃木県の歴史文化や自然環境の理解を図ることを目的とした学外研修を「日研生特別研究Ⅱ」で実施した。なお、移動に際しては、本学の供用車を利用した。

<実施概要>

- 1) 日 時：2021年8月5日（木）9：00～17：00
- 2) 研修先：日光東照宮、鬼怒川ライン下り
- 3) 参加者：日研生2名
- 4) 引率者：湯本浩之・飯塚明子



日光東照宮にて



鬼怒川ライン下りにて

(3) 日本語・日本文化研修留学生修了レポート発表会

2021年8月に、1年間の研修成果をまとめた修了レポートの発表会をハイブリッドで開催し、1年間のプログラムを無事に修了した。かれらの研修テーマは以下の通りであったが、日本語や日本文化に関するたいへんユニークなテーマが取り上げられており、学生たちの日本文化や日本社会に対する関心の高さをうかがうことができた。なお、2022年1月に修了レポート集を発行したので、詳細は同レポート集を参照されたい。

<実施概要>

- 1) 日 時：2021年8月3日（火）17：00～18：10
- 2) 会 場：4号館B棟1階103教室、及びオンライン
- 3) 内 容：（司会）飯塚 明子（「日本語・日本文化研修留学生プログラム」担当教員）
 - ①開会の辞：横尾 昇剛（留学生・国際交流センターセンター長）
 - ②修了レポート発表：
 - 1) 「タイ人と日本語学習者と日本語母語話者に見られる『断り』の表現」
ナッタヴィラード・トッサポン（Nuttawilard Todsapol・タイ）
 - 2) 「中国における日本語専攻者・非専攻者の学習動機についての比較
－浙江師範大学の大学生を対象に」
シン・アンナン（Shen Annan・中国）
 - 3) 「日韓のドラマの対立関係および解決の様子の比較分析
－『派遣の品格』と『ミセン』を中心に」
イー・ミンギョン（Lee Minkyung・韓国）
 - ③閉会の辞：湯本 浩之（留学生・国際交流センター副センター長）



オンライン発表会の様子

(4) 令和3(2021)年度日本語・日本文化研修留学生の受け入れ

2021年9月末に、令和3(2021)年度の日本語・日本文化研修留学生(日研生)3名が来日の予定であったが、コロナ禍のため来日が適わず、自国からのオンラインでの実施となった。学事歴の後期にあたる研修前半(10月～3月)では、日本語・日本文化研修留学生プログラムの日本語科目等をオンラインで受講した。その後、日研生は、2021年12月にベトナムから来日、2021年4～5月に中国、韓国、タイから来日し、対面での授業を再開した。そのほか、必修科目「日研生特別研究Ⅰ」の一環として、国際学部附属多文化公共圏センター、日光市観光経済部観光課および日光市国際交流協会の共催によるシンポジウム「国際交流都市日光の再発見：奥日光の自然を活かした観光地づくりを留学生と考える」(12月5日)に参加した。

なお、後期の授業終了時点(2021年1月)での研修テーマは以下の通りである。研修後期にあたる来年度前半は、さらにテーマを検討しながら修了レポートを執筆していくこととなる。

名前	国籍	大学名	研修テーマ
Do Hanyul (ド・ハンユル)	韓国	慶北大学校	異世界」ジャンルにおけるマンネリとその解消-アニメ化された作品を中心に-
Hu Yi (フ・イー)	中国	浙江師範大学	新型コロナウイルス感染症が日本の在籍外国人留学生の学習に与える影響とその対策
Panida Spaokij (パニダー・スパオキット)	タイ	カセサート大学	日本におけるタイコスメについて
Trinh Thi Phuong Ha (チン・ティ・フオン・ハー)	ベトナム	ハノイ大学	宇都宮大学生における間違いやすい敬語表現に関する実況調査

(飯塚)

1.4 大学の世界展開力強化事業「アフリカ諸国との大学間交流形成支援」

(1) 経緯

文部科学省では、「国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行う事業対象国・地域の大学との国際教育連携の取組を支援すること」を目的として、2011(平成23)年度から「大学の世界展開力強化事業」を実施している。

本学は、2020(令和2)年度の公募事業「アフリカ諸国との大学間交流形成支援」(タイプA:スタートアップ型)に対して、「アフリカの潜在力と日本の科学技術融合によるSDGs貢献人材育成プログラム」を申請し、同年12月に採択された。

採択後には本事業の推進に向けては、2021(令和3)年2月に、学術国際委員会の下に世界展開力強化事業推進室が設置され、当センターからは、平井英明前センター長、湯本浩之副センター長、飯塚明子教員の3名が室員として参加した。本年度は、平井前センター長に代わって、横尾昇剛センター長のほか、湯本・飯塚の両教員が室員として参加し、センター事務室がその実務を引き続き担当することとなった。

(2) 事業概要

- 1) 事業期間：2020年度～2024年度(5年間)
- 2) 事業目的：

文理融合の教育研究を特徴とする宇都宮大学大学院地域創生科学研究科における、農学部および国際学部関係のプログラムが、アフリカにおいて食料生産から流通・加工・販売システムまで含めた高生産性農業を中心として、地域社会の潜在力や社会構造に基づく持続的発展のあり方を理解し、日本とアフリカの共同事業に貢献できる人材育成を目的とする。

3) 交流プログラムの概要：

- ①分子農学およびスマート農業に基づく高生産性農業の確立
- ②高生産性農業や在来知に基づく持続的地域社会の構築

4) 連携大学

- ジョモ・ケニヤッタ農工大学（ケニヤ）
- アジスアベバ大学（エチオピア）
- メル科学技術大学（ケニヤ）
- ダルエスサラーム大学（タンザニア）
- ネルソンマンデラアフリカ科学技術機構（タンザニア）
- ガーナ大学（ガーナ）

(3) 「世界展開力強化事業推進室」会議の開催

本年度は 15 回の推進室会議を開催した。なお、同年度の「推進室」の構成員は下表の通りである。

役名	氏名	所属・役職
室長	横田 信三	農学部教授
副室長	阪本 公美子	国際学部教授
コーディネーター	夏秋 知英	留学生・国際交流センター特命教授
室員	横尾 昇剛	留学生・国際交流センター長
	大森 玲子	地域デザイン科学部教授
	吉田 一彦	国際学部教授
	栗原 俊輔	国際学部准教授
	青山 真人	農学部准教授
	西川 尚志	農学部准教授
	福村 一成	農学部准教授
	煉谷 裕太郎	農学部助教
	湯本 浩之	留学生・国際交流センター教授
	飯塚 明子	留学生・国際交流センター助教
事務局	田崎 正憲	留学生・国際交流センター事務室長
	神戸 幸	留学生・国際交流センター事務室国際交流企画係長
	石川 香緒里	留学生・国際交流センター事務室
	大坪 里紗	留学生・国際交流センター事務室
	山本 浩之	留学生・国際交流センター事務室

(4) UU-A 月例会議

アフリカ側の 6 大学の関係者とのオンラインでの「月例会議」を本年度は 11 回開催した。

(5) 必修集中講義「Global Management」の開講

- 1) 講師：アフリカの大学 6 名（各大学から 1 名ずつ）および本学教員 8 名
- 2) 講義回数：全 15 回（開講期間：2021 年 9 月 6 日～ 24 日）
- 3) 講義方法：
 - 第 1 回（講義の説明等）及び第 15 回（総括）：Zoom によるオンタイム・オンライン授業。
 - 第 2 回～第 14 回は、C-learning を用いたオンデマンド授業。
- 4) 成績評価：
 - 各回 10 点満点でレポートか小テストで採点し、合計 150 点満点中 90 点以上獲得で修了証（Certificate of Achievement）を授与。
- 5) 受講希望者数：223 名（うち本学 52 名、アフリカ 6 大学 171 名）
- 6) 修了証授与者数：147 名（うち本学 45 名、アフリカ 6 大学 102 名）。

(6) UU-A 連続国際シンポジウム

教員間の研究交流の一環として、本「推進室」室員や外部の専門家を講師とした「連続国際シンポジウム」を本年度はオンラインで4回開催した。実施概要は次の通り。

<実施概要>

- 1) 第1回：2021年10月28日17:30～19:00（日本時間）
講師：田中 樹氏（摂南大学教授）
講演題目：「脆弱環境での貧困削減と生態環境の保全：タンザニア・ウルグル山域の事例」
参加者数：66名。
- 2) 第2回：2021年11月26日17:30～19:00（日本時間）
講師：米山弘一氏（宇都宮大学名誉教授）
講演題目：「根寄生雑草：生物学と防除法」
参加者数：56名。
- 3) 第3回：2021年12月23日17:30～19:00（日本時間）
講師：鈴木文彦氏（国際協力機構・経済開発部）・川越結氏（国際協力機構・筑波センター）
講演題目：「アフリカ農業セクターにおける JICA 活動」
参加者数：47名。
- 4) 第4回：2022年1月21日16:00～18:00（日本時間）
講師：阪本公美子氏（宇都宮大学教授）・武藤杏子氏（宇都宮大学研究員）・大森玲子氏（宇都宮大学教授）・Lilian Kaale 氏（ダルエスサラーム大学）、Linus Munishi 氏（ネルソンマンデラアフリカ科学技術大学院大学教授）
講演題目：「アフリカの野生植物と伝統食の可能性：タンザニアからの研究成果」
参加者数：47名。



(7) UU-A Student Summit (学生サミット)

本学およびアフリカの6大学の学生による研究発表をオンデマンドの学会方式で実施した。実施概要は次の通り。

- 1) 開催期間：2022年3月8日～10日
- 2) 実施方法：発表を希望する学生は、事前登録をした上で、発表内容の録画した映像をオンライン上に事前に提出。参加学生は、学生サミット期間中にビデオを視聴して、チャット上での意見交換を実施した。
- 3) 閉会式・授賞式：3月11日午後6時（日本時間）より、ZOOMでリアルタイムに開催。池田学長のビデオメッセージを放映。10名の優秀発表者を表彰した。
- 4) 企画運営：7大学の学生が委員会を組織して、企画・運営にあたった。
- 5) 発表者数：当初は90名以上の発表希望登録者があったが、発表要旨の提出者は60名で、ビデオをアップロードできた学生は最終的に53名であった。

<内訳>

ジョモ・ケニヤッタ農工大学：8名
アジスアベバ大学：6名



メル科学技術大学：8 名
ダルエスサラーム大学 2 名
ネルソンマンデラ科学技術機構：1 名
ガーナ大学：6 名
宇都宮大学：22 名

6) 参加登録者：210 名

<内訳>

ジョモ・ケニヤッタ農工大学 37 名（うち教員 1 名）
アジスアベバ大学 18 名（うち教員 2 名）
メル科学技術大学 12 名（うち教員 2 名）
ダルエスサラーム大学 2 名（うち教員 0 名）
ネルソンマンデラ科学技術機構 50 名（うち教員 2 名）
ガーナ大学 13 名（うち教員 2 名）
宇都宮大学 58 名（うち教員 25 名）
その他 21 名（海外 5 名、国内 15 名）

7) 報告書： 報告書（Proceeding）として「UU-A STUDENT SUMMIT 2022 – SUMMIT PROGRAMME AND ABSTRACTS」を発行した。以下の URL からダウンロード可能である。

<https://uu-a.utsunomiya-u.ac.jp/20220311-1/>



(8) 大学院科目との連携

本事業の実施に際しては、地域創生科学研究科が開講する「地域創生リテラシー」科目内にある次の実践力科目と連携した。

1) 「Global Management」:

上記 (5) を参照されたい。

2) 「臨地研究 (On-site studies)」:

上記(7)の「UU-A 学生サミット」と連携した。宇都宮大学の 12 名が履修し、10 名が「UU-A 学生サミット」にて発表。2 名が優秀発表賞を受賞した。

3) 「実践フィールドワーク」:

上記(6)の「UU-A 連続国際シンポジウム」と連携した。学生 1 名が履修し、実践活動報告会で発表した。詳細は、ウェブサイト (<https://uu-a.utsunomiya-u.ac.jp/20220214-1/>) を参照されたい。

(9) アフリカ 6 大学との協定状況

本事業のアフリカ側の参加大学との大学間の協定状況は以下の通りである。

- 1) すでに協定締結済み：ガーナ大学／ジョモ・ケニヤッタ農工大学、
- 2) 2021 年度に締結：アジスアベバ大学／ネルソンマンデラ科学技術大学院大学
- 3) 最終確認中（2022 年度に締結予定）：メル科学技術大学／ダルエスサラーム大学
- 4) 協定延長予定：ジョモ・ケニヤッタ農工大学（本年 11 月で期限切れのため）

(湯本)



1.5 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム

(1) 経緯

文部科学省では、「海外から我が国の大学に留学する学生を国費外国人留学生として優先的に配置することにより、各大学において、優秀な留学生を獲得する仕組みの構築を促すこと」を目的として、「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」を実施している。

本学は本プログラムに対して、2020年度に「多様な地域創生に資する工農イノベーション人材育成プログラム」を申請し、2020（令和2）年12月に採択された。本プログラムの採択を受けて、留国センター長の平井英明教員（当時）を中心に、農学部の大久保達弘教員、工学部の堀尾佳以教員、そして、留国センターの湯本浩之教員および飯塚明子教員でワーキンググループを立ち上げて、企画立案を進めた結果、2021年度後期より、以下のようなプログラムを地域創生科学研究科工農総合科学専攻で開講できるよう、同年度前期に参加学生を募集することとした。

(2) 本プログラムの実施概要と学生募集

本年度は、以下のような実施概要に基づいて、4月20日から学生募集を開始した。

- 1) 目的：多様な持続可能な開発目標（SDGs）と地域創生に資する工農に関するイノベーションを創出できる人材を育成すること。
- 2) 活動内容：所属専攻の学位プログラムの修了要件を充足した上で、次の活動等に参加する。
 - ① SDGsに関するセミナーに参加し発表する。
 - ② 「技術日本語」（地域創生リテラシー文系科目群）を履修する。
 - ③ 外国人留学生を支援する活動に積極的に参加する。
- 3) 募集専攻：地域創生科学研究科・工農総合科学専攻
〔学位プログラム〕 光工学・分子農学・物質環境化学・農芸化学・機械知能工学・情報電気電子システム工学・農業生産環境保全学・森林生産保全学
- 4) 募集対象
 - ① 2021年度に入学した私費外国人留学生または日本人学生で、2021年10月に対象専攻に在籍している者。
 - ② 私費外国人留学生は、次のA) B) 両方の語学要件を満たすこと。
 - A) 日本語能力試験N2レベル相当以上の日本語能力を有すること。
 - B) TOEFLiBT54以上もしくは、TOEIC650以上の英語能力を有すること。
- 5) 募集人員：私費外国人留学生3名、日本人学生3名。
- 6) 申請書類：
 - ① 申請書（※申請書様式はC-Learningからダウンロード）
 - ② 成績証明書（写し可。大学・学部のもの）
 - ③ 語学のスコア（写し可）〈私費外国人留学生のみ〉
- 7) 申請期限：

当初は2021年5月27日（木）までとしたが、追加募集を実施し、その申請期限を6月11日（金）までとした。

(3) 「SDGsセミナー」の開講

本プログラムの中核となる「SDGsセミナー」を以下の通り開講した。ただし、コロナ禍の影響により、一部のプログラムが中止や2022年度へ延期となった。また、最終プレゼンテーションを2022年6月に実施した。

- 1) 「オリエンテーション」(担当：堀尾〔工学部])
実施日：2021 年 11 月 26 日 (金) 13:00～
場 所：オンライン (ZOOM)
内 容：①顔合わせ：教員紹介および学生自己紹介
②今後のスケジュールについて ③その他
- 2) 「現地フィールド見学」(担当教員：堀尾〔工学部])
実施日：2021 年 6 月 25 日
内 容：足利学校および足利フラワーパークを見学。
※ただし、工学部のイベントと合同で実施。
- 3) 「SDGs 概論とワークショップ」(担当教員：湯本)
実施日：2022 年 5 月 18 日 (水) 4 コマ (14:20～15:50)
場 所：4 号館 B 棟 1 階 103 教室
内 容：SDGs に関する概要説明とグループワークを実施した。
- 4) 「SDGs 演習」
 - ①「ものづくりと SDGs」(担当教員：堀尾〔工学部])
実施日：2021 年 12 月から 2022 年 6 月まで
場 所：オンライン
内 容：参加学生を 3 つのグループに分け、グループごとに「ものづくり活動」を実施し、中間発表会 (4 月 19 日) と最終発表会 (6 月 24 日) を開催した。
 - ②「防災と SDGs」(担当教員：飯塚)
実施日：2022 年 5 月 31 日 (火) 3 コマ (12:40～14:10)
場 所：4 号館 B 棟 1 階 103 教室
内 容：災害の現状と防災の取り組み、災害弱者の支援活動に関する演習を実施した。
備 考：当初は宇都宮気象台を見学する予定だったが、コロナ禍のため中止となった。
 - ③「森林と土壌と SDGs」(担当教員：大久保・平井〔農学部])
実施日：2022 年 6 月 4 日 (土) 終日 (9:00～16:30)
場 所：宇都宮大学農学部附属船生演習林
内 容：森林生態系の仕組みと役割について、SDGs の視点から実践的に学びことを目的に、演習林内での手鋸による枝打ち作業のほか、土壌断面観察を表土と下層土の手触りや色の違いに着目して実施した。
- 5) 「最終プレゼンテーション」(担当教員：横尾・大久保・平井・堀尾・湯本・飯塚)
実施日：2022 年 6 月 29 日 3・4 コマ (12:40～15:50)
場 所：4 号館 B 棟 1 階 103 教室
趣 旨：「SDGs セミナー」での学修を参考に、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成と持続可能な地域創生に資する工農イノベーションの創出に向けたアイデアを提案して、今後の自身の取り組みを共有した。
内 容：趣旨説明・学生発表 (6 名)・質疑応答・教員からの講評・受講認定証の授与。



船生演習林での枝打ち



受講認定証の授与



最終プレゼンテーションの様子

6) 2021 年度「SDGs セミナー」受講認定者

本年度の本「セミナー」への参加学生は当初 7 名であったが、以下の 6 名に受講認定証を授与した。

	氏 名	所属プログラム
①	Nooradzirah Binti Abdul Rashid	光工学
②	吉田 優佳	光工学
③	Nurshuhada Izzati Binti Suhaimi	物質環境化学
④	Abdul Adzim Bin Abdul Sukor	機械知能工学
⑤	小堂 賢斗	情報電気電子
⑥	飯塚 早紀	森林生産保全学

(湯本)

2 相談体制・生活支援

2.1 基本的認識

下記の〔事前の対策〕と〔様々な制約の中での適切・迅速な対応〕については、毎号ほぼ同じ文章を掲載している。これは、留学生・国際交流センターが実施する「相談・指導」の根本に関わるからである。

〔事前の対策〕

留学生の置かれている立場は不安定なものである。一見何の問題もなく、元気で楽しく過ごしているように見える。留学生でも、日本という「異国=外国」での生活は母国同様であるはずがなく、常にストレスと隣り合わせの毎日である。留学生と接する教員・職員は、このことを基本的認識として心にとどめ、日頃から彼らの行動や表情に注意を払う必要があるだろう。そして何らかの変化が見えたとき、留学生に歩み寄り、その変化に危険な要素が含まれていないかどうかを確認することが常に求められている。つまり、すでに起こってしまった問題にどのように対処するかということ以前に、問題を起こさないための事前の解決が極めて重要な任務となる。

〔様々な制約の中での適切・迅速な対応〕

しかしながら、全ての留学生にまんべんなく接することは不可能と言わざるをえない。そこから何らかの問題が生ずることは避けられない事実でもある。実際のところ、大学が提供している生活環境、就学環境は、残念ながら必ずしも適正なものとはいえない。それが原因となり留学生の心理が揺らぎ、留学生の生活に重大な影響を与えることもありうる。留学生を取り巻く環境を改善するには多額の資金が必要となり、大学全体として取り組む姿勢が十分整っていない現実は遺憾と言わざるをえないが、そうした状況であっても、留学生と接する教員・職員は、むしろその中でより良い相談体制、より良い生活支援はどうあるべきかを考えると同時に、様々な制約下の現状でも実践できるものを実践して行くという姿勢が必要である。特に深刻な問題を抱える留学生に対しては、解決に向けて適切に対応し、迅速に行動することが求められる。

2.2 相談体制

留学生・国際交流センター専任教員 2 名が、生活・就学相談の担当者である。授業中、または授業の前後に何気なく交わす会話も重要である。「相談」と改まって構えるのではなく、留学生が言葉で表すことができないでいる、その時々々の心理状態を自然な対応で探ることが出来るからである。それにより、深刻な事態になる以前に留学生の気がかり、不安、現実的な問題を取り除く役割を果たしている。

2 名の専任教員が各自のオフィスアワーを設け、出来る限り留学生の相談に乗れる体制も取っている。留学生は、このオフィスアワーに、授業等で接する機会の多い教員の所へ相談に行く傾向がある。その際、留学生によっては長い滞在中、精神的に不安定な状態に陥る者もある。これはかなり深刻なケースであり、そのような場合、彼らは相談相手として先ず自分が最も信頼でき、しかも母国語でコミュニケーション出来る人を求める。当センターの 2 名の専任教員はともに、英語に堪能であり、実際に、深刻な問題を抱えて担当教員を訪れた留学生もいる。言語に関しては完璧とまでは行かないまでも、ある程度整った環境であると判断される。留学生・国際交流センター事務室の職員も、留学生の相談に大きな役割を果たしている。彼らが諸手続等を行うために同事務室の窓口に来た際、積極的に留学生に話しかけ、心配事、相談したいことがないかどうか、常に配慮している。特に、交通事故、病気などの連絡が入った場合、休日を問わず、留学生をサポートできる体制となっている。また、英語及び中国語に堪能な職員が数名おり、留学生のサポート体制を強化している。また、留学生国際交流会館に居住する留学生に対しては、主に会館担当職員が日常の相談に当たっているほか、重要な問題や事案に関しては、センターの教員や事務室の職員が対応に当たっている。

この様に、相談体制については、相談・指導担当の教員だけでなく、センターの教員・協力教員・職員が総動員で当たっている現状である。



【令和3年度留学生・国際交流センター専任教員のオフィスアワー】

教員名 \ 曜日	月	火	水	木	金
湯本浩之		12:00~13:00			
飯塚明子			10:00~12:00		

(横尾)

2.3 相談実績

留学生・国際交流センターでは、留学生の様々な生活上の問題について相談を受けるのは当然のことながら、それに加えて日本人学生の留学関連の相談や、留学生と日本人学生の交友・交流に関するアイデア、企画に関する相談等も行っている。以前は、個々の相談に関する情報(日時、内容、留学生・日本人学生等の種別)を表で示していたが、実際に行った相談を全て記録することが実質的に不可能なので(※近年、メールや電話による、問い合わせ相談等が増加していることもその一因である)、2011年号以降、表による実績表示を止めている。

主な相談内容は次のとおり。

〔留学生〕

修学・進学／アルバイト／奨学金／住居／各種保証人／在留期間更新・在留資格変更等

〔日本人学生〕

派遣留学に関する相談／チューター・アドバイザー関連／留学生との交流等

学生からの相談で深刻なものは、病気やケガ・交通事故等に関するものである。特に交通事故については、学生本人が相手方(多くは相手方の加入している保険会社)と対等に交渉するのはほぼ不可能であるため、事故対応サービス付きの保険(外国人留学生向け学研研付帯学生生活総合保険)への加入を強く推奨しているところである。

2.4 支援活動

(1) 留学生アドバイザー

本学在学生による組織で、日本人学生と外国人留学生間の交流促進のため、各種イベントを企画・実施している。メンバーには、留学経験者・留学予定者の他、既に日本で生活している外国人留学生も含まれており、例年、センターが実施する留学生関連の交流会や、留学生の生活上のサポート等に協力するなど、幅広く精力的に活動している。

2021年度は、日本人学生と外国人留学生のオンライン交流会を実施したほか、新規に渡日した留学生の役所等での諸手続きのサポートを行った。

(2) チューター

外国人留学生に対し、学習・研究指導(予習・復習の手伝い)を中心に、日本語指導、日常の世話(学内外の案内、諸手続き、買い物、宿舎探しの補助等)を行う。支援を必要とする留学生ごとに、所属学部・研究科や出身国、語学力等を勘案し、チューター1名を割り当てている。チューターは、指導教員の判断により必要と認められる期間(原則、来日後1年以内)配置される。

2021年度は、オンライン交換留学生にもチューターを割り当て、オンライン学習システムの利用方法の説明、履修登録のサポート、日本語指導等を行った。

**2021年度後期 外国人留学生向け
チューター募集!**

外国人留学生の生活や学習をサポートする、チューターの募集を行います。
チューターとしての活動を希望する人は、以下の事項に申し込んで登録してください。

※2021年度後期については、オンライン上の活動を推奨するものとし、謝金チューター活動としての条件を満たす場合は、謝金支払いの対象となります。
なお、チューター活動を再開を行う場合は、必ず、新型コロナウィルス感染症予防のための対策を実施するようお願いいたします。

【登録条件】
①学部大学の正規課程に在籍している学部生・大学院生
②チューター業務に関心があり、責任感を持って留学生のサポートを行えること

【登録方法】
Microsoft Forms(下記URL)より、応募事項を入力し、送信してください。
<https://forms.office.com/r/1Hredtu0Q>

登録者へ連絡することになった場合のみ、留学生・国際交流センター事務局から連絡します。
(※マッチングの結果、連絡されない場合もありますのでご了承ください。)

【登録期間】
登録は随時受け付けますが、マッチングの関係上、なるべく早めの登録をお願いします。

問い合わせ先
留学生・国際交流センター事務局(4Fキヨコビル404号室)
TEL:02-6449-1440
exchange@iijys.jp / iijys@iijys.ac.jp

2.5 各種オリエンテーション

外国人留学生に対しては、交換留学生や学部新入学生を対象に、宇都宮大学において勉学する際に必要な日本語科目、基盤教育関係科目、日本での生活をする上での諸注意等に関するオリエンテーション及び説明会等を以下の通り実施しているが、2021 年度は COVID-19 流行により、外国人の多くが上陸拒否となり、来日留学生が若干となったことと感染症対策から、集会形式で行うオリエンテーションは中止し、オンラインや個別面談での情報提供となった。

(1) 国際交流会館入居説明会

例年は、4 月と 10 月の初旬に年 2 回、国際交流会館の新規入居者に、会館の施設管理やキッチン・シャワー室・洗濯室等の共同施設の利用方法や注意事項を国際交流会館集会室にて集会形式で行っている。

2021 年度は、該当の入居者個別に留学生係から指導した。

(2) 新規来日留学生（学部留学生を除く）オリエンテーション

例年は、4 月と 10 月の初旬に年 2 回、交換留学生・日研究生等の非正規生の留学生を対象に、当センター開講科目の初級・中級・上級別の授業説明、日本語・日本文化研修プログラム説明、中級日本語短期留学プログラム説明、日本語授業履修にあたっての各留学生の日本語レベルチェックを行っている。

2021 年度はオンライン交換留学・日研究生含めて、在籍留学生個別に留学生係から指導し、日本語レベルチェックは受講希望の授業担当講師と留学生で個別相談とした。なお、授業担当講師との交流は随時の個別相談含めて、ウェブ会議ソフトや電子メールを利用したのオンライン対応であった。

(3) 新規来日留学生生活上の留意事項説明会

例年は、4 月と 10 月の初旬に年 2 回、交換留学生・日研究生等の非正規生の留学生を対象に、役所の手続きや防犯交通安全指導を、宇都宮東警察署の講話含めて行っている。

2021 年度は対象となる留学生個別に留学生係から指導した。

(4) 新規来日留学生歓迎会

例年は、4 月下旬と 10 月下旬に、新規来日留学生歓迎のために、学長及び関係理事、各学部の留学生指導担当教員や、留学生チューターや先輩留学生等、合計およそ 100 人以上が参集して顔合わせのための懇親会を例年開催している。

2021 年度は、COVID-19 の状況を考慮して中止した。

(5) 学部新入学生オリエンテーション

例年は、4 月上旬に、学部正規生の新入生、特に国際学部開講日本語科目を履修する留学生を主な対象に、授業履修方法や日本での生活における注意事項について説明会を開催している。

2021 年度は中止し、生活上の注意事項はセンターホームページに情報掲載にて対応し、聴講届の提出方法等のキャンパスライフへの助言は、留学生係及び各学部担当係等から個別に行った。

(6) 国際交流会館退去説明会

例年は、7 月と 3 月に退居予定者に対して、帰国の航空券の手配や、会館退去の各種手続きについて会館の集会室で説明会を行っている。

2021 年度は該当留学生が若干名であることから中止し、留学生係から対象者個別に指導した。



(7) 交換留学生のための大学院進学説明会

例年は、7月中旬に、来日中の交換留学生を対象に、本学の学部や大学院、各入試の概要説明を行い、交換留学終了後の日本への再留学を促進する入試広報を行っている。2021年度は交換留学生の受入がオンラインのみであったため、実施しなかった。

(留学生・国際交流室)

3 留学生交流支援

3.1 栃木県地域留学生交流推進協議会

本協議会は、栃木県における留学生等の円滑な受入の促進と交流活動の推進を図り、地域住民の国際理解に寄与するために設立されたもので、県内の高等教育機関、国の機関、地方公共団体、経済団体及び国際交流団体等で構成されている。本学が事務局となっており、本年度は6月に総会、3月に運営委員会(メール会議)を開催した。

(1) 栃木県地域留学生交流推進協議会総会

- ①開催日時：令和3年6月18日(金) 15:30～
- ②議 題：1) 令和2年度栃木県地域留学生交流推進協議会実施事業について
2) 令和2年度本推進協議会実施事業経費決算について
3) 令和3年度本推進協議会実施事業計画(案)について
4) 令和3年度本推進協議会実施事業経費予算(案)について
5) 栃木県地域留学生交流推進協議会に関する申合せ事項第1項(4)に基づく監査員選出基準改正(案)について
6) 令和3年度本推進協議会感謝状贈呈について
7) その他
- ③報告事項：1) 令和2年度県内各種団体等による主な外国人留学生交流・支援事業について
2) その他

(2) 栃木県地域留学生交流推進協議会・運営委員会

本運営委員会は、栃木県地域留学生交流推進協議会規約(以下「協議会規約」という。)第8条第2項の規定に基づき設置され、協議会規約第3条に規定する協議事項について、具体的な実施方策を協議している。

- ①開催日時：令和4年3月15日(金)
- ②開催方法：メール会議
- ③議 題：1) 令和3年度本推進協議会実施事業について
2) 令和3年度本推進協議会実施事業経費決算について
3) 令和4年度本推進協議会実施事業計画(案)について
4) 令和4年度本推進協議会実施事業経費予算(案)について
5) 令和4年度本推進協議会感謝状贈呈候補者(案)について
- ④報告事項：1) 令和3年度県内各種団体等による主な外国人留学生交流支援事業について
2) 本推進協議会会計に係る令和4・5年度監査員について
3) その他

(3) 留学生指導教員及び事務担当者研修会

本研修会は、栃木県内の大学、短期大学、高等専門学校において、留学生に対する教育、指導・相談を担当する教職員が一同に会し、留学生の受入れ・派遣における教職員相互の協力のあり方等について討議することにより、今後の留学生指導・支援の充実に資することを目的として、本「推進協議会」が開催するものである。本年度は、以下のとおり研修会を実施した。

- ①開催日時：令和3年12月2日(木) 13:30～15:00
- ②講 義：1) 在留資格認定証明書について

- 2) 短期滞在ビザについて
 - 3) ビザの変更について
 - 4) 未入国の留学生の今後の見直しについて
 - 5) 留学生のアルバイトに関する特例について
- ③情報交換：1) コロナ渦での留学生の就職状況はどうか。
- 2) 留学生向けのイベントは学内でどのような内容があるか。
 - 3) 海外提携校との留学プログラムの実施状況はどうか。次年度以降はどうか。
 - 4) 学生のアルバイトに関する現状把握と大学での関与について各大学での対応をお知らせ頂きたい。
 - 5) 留学生の大学での専攻と就職についての関連性について

3.2 交流支援事業

(1) 令和3年度新規留学生のためのガイダンス及び懇親ティーパーティー

地域留学生交流推進協議会及び公益財団法人栃木県国際交流協会共催による新規留学生のためのガイダンス及び懇親ティーパーティーを開催するものである。※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(2) 令和3年度外国人留学生との交流会

宇都宮大学内において地域留学生交流推進協議会主催による交流会を開催し、県内高等教育機関に在籍する留学生、栃木県地域留学生交流推進協議会構成員及び宇都宮大学教職員等が参加するものである。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

3.3 小・中・高等学校での国際交流

例年は、栃木県内の小・中・高校からの要請により、本学の留学生を各学校の授業等に派遣し、交流や対話の場を提供している。2021年度はCOVID-19拡大予防のため、オンラインによる交流会参加の1件にとどまった。

<交流実績：計1件>

(1) 栃木県立栃木翔南高等学校

①主 催：栃木県立栃木翔南高等学校

②日 程：令和3年12月7日（火）

1) 1年生との交流（14：00～14：45）

2) 2年生との交流（14：55～15：40）

③実施形態：Zoomによるオンライン開催

④派遣人数：3名

内訳：地域創生科学研究科博士前期課程2年（スリランカ出身）1名

地域創生科学研究科博士前期課程1年（ウズベキスタン出身）1名

国際学部4年（ベトナム出身）1名

⑤交流内容

留学生による自国の様子・文化についてのプレゼンテーション及び高校生からの質疑応答

（留学生・国際交流室）

4 留学生の獲得施策

留学生・国際交流センターでは、例年、日本学生支援機構（JASSO）主催による「日本留学フェア」および「外国人学生のための進学説明会」に毎年参加してきた。「日本留学フェア」は海外会場で開催するもの、「外国人学生のための進学相談会」は、国内会場（東京・大阪）で開催するものであった。2020 年度に引き続き、2021 年度も対面を伴う外国会場での開催はなく、オンライン開催による進学説明会の募集があり、これに参加した。

JASSO 以外の団体が主催する留学フェアも、ポータルウェブサイトで参加大学等の学校・入試情報やプロモーション動画を収集・掲載し、ウェブ会議ソフトで各大学概要紹介動画の放映や個別相談等を行う、オンライン形式のみ開催され、本学も下記のとおり参加した。

4.1 JASSO 主催日本留学オンラインフェア

2010 年度は、国内在住の留学生を対象と海外在住者を対象とわけて開催されていたに対し、2021 年度は留学生の居住地は問わず、公用語を英語とする日程（2021 年 8 月下旬～9 月初旬）と、日本語とする日程（2021 年 9 月上旬～下旬）にわけて開催された。

本学は、公用語を日本語とするフェアのうち、9 月 12 日（日）に参加した。

1) 主催等

- ①主催：独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）
- ②後援：外務省、独立行政法人国際交流基金
- ③協力：各国帰国留学生会及び関係機関

2) 実施概要

①日程及び参加機関数：

- 英語フェア：2021 年 8 月 21 日（土）・29 日（日）
9 月 4 日（土） 各 12：00～17：00

参加校：大学 62 校（国立 31・公立 5・私立 26）・
専門学校等 39 校／計 101 校

- 日本語フェア：2021 年 9 月 12 日（日）・18 日（土）・
26 日（日） 各 11：00～16：30

参加校：大学 61 校（国立 10、公立 6、私立 45）、
短大 2 校、専門学校 38 校／計 101 校

②配信対象エリア：日本を含む全世界

③参加対象者：

- ・海外在住の高校生・大学生等日本留学希望者、高校等の進路指導担当教員、大学等の国際交流担当者等
- ・日本の高等教育機関への進学を希望する、国内の日本語教育機関等に在籍する外国人学生及び日本語教育機関の教職員等

④日本語フェア（3 日間）への申込数（9 月 7 日（木）時点）

1,416 件（海外 1,266 件、日本 150 件）

⑤開催概要：フェア特設サイトにおける JASSO 及び各大学等の情報提供

参加機関によるライブセッション（上記 3 の日程で実施）※Zoom 利用

※ライブ配信内容は希望する機関のみ日本留学情報サイトへ 1 か月程度掲載。

日本留学オンラインセミナー（JASSO 企画）※Zoom 利用



3) 本学概要

- ①日時：9月12日（日）11：00～12：00（質疑応答を12：40まで延長）
- ②参加者：本学教職員 飯塚明子（留学生・国際交流センター助教）、横田信三（農学部教授）、田崎正憲（事務室長）、神戸幸（国際交流企画係長）
来場者 ログイン瞬間最大値 66 アカウント（本学5アカウント含む）
- ③進行：本学が開設した Zoom ミーティング（環境は主催指定）に来場者に入室してもらい、グループミーティング形式で全体説明及び質疑応答を行った。
チャットや挙手で質問受付と回答、資料 URL 送付等を行った。
11：00～11：20 本学概要説明（飯塚）
パワーポイント資料に基づき、本学所在地や学部等の説明
11：20～12：25 留学生からの質疑応答（司会：飯塚）
（留学生退室）
12：25～12：40 在ベトナム留学機関（GoToJAPAN 留学センター）職員からの個別相談
- ④質問内容（来場者のうち、10数名が質問）
- ・各自の志望分野を本学で学べるか（学部や大学院（M）レベル）
畜産、語学・文化学、国際法、国際学、機械、自動車整備士、法学・日本の弁護士資格取得、日本語教育
 - ・本学入学に必要な語学力（日本語あるいは英語）、語学試験成績（JLPT やEJU）、本学授業を英語で履修可能か
 - ・オンライン入試で受験可能か
 - ・奨学金を受けやすくするにはどうすればよいか
 - ・（本学に）交換留学したい
- ⑤その他
- ・留学生は、日本語は一定堪能（都内日本語学校生徒より少しつたない～同程度）。
 - ・質問した学生の国籍はベトナム、タイ、台湾、中国（内モンゴル）等。学部と大学院は半分程。
 - ・過去の対面式の留学フェアや本学 OC と同様、学びたい分野の自己分析が大まかであり、本学にない専攻の質問などの、一般的な進路指導・相談に類する質問が一定数あった。

4.2 日本語学校等を会場とした外国人学生のための進学説明会

コロナ禍以前は、日本語学校を会場とした、日本語学校在籍の外国人留学生対象の進学説明会に、春から夏にかけて参加しているが、2021年度も昨年度に引き続き、感染症対策から対面でのイベントはなく、長沼スクールでのオンライン進学説明会に参加した。

(1) ONLINE 国公立進学フェア for 長沼スクール（東京日本語学校）

- ①日 程：2021年9月3日（金）10：30～13：30
- ②参加者：長沼スクール 外国人留学生2名
〔本学関係者〕中村真（国際学部教授）・吉田一彦（国際学部教授）・飯塚明子（留学生・国際交流センター助教）・田崎正憲（事務室長）・神戸幸（国際交流企画係長）
- ③場 所：オンライン（Zoom）
- ④進 行：最初に、キャンパス所在地、学部概要紹介などを行い（10分）、生徒から質疑応答を交互に受けた。
- ⑤質問等
- ・留学生が利用できる奨学金制度、本学キャンパス周辺の家賃相場・治安等

- ・志望研究室の担当教員や研究分野の調べ方、EJU 受験科目等の出願要件
- ・令和 4 年度入試もオンライン入試を行う見込みか、海外からオンライン受験可能か
- ・海外の大学に在籍中であり、3 年次編入を希望しているが受験可能か。

4.3 「大学の世界展開力強化事業」による他大学主催の留学フェアへの参加

本学も令和 2 年度（2021 年度）に採択された、大学の世界展開力強化事業によって、他大学で実施された留学フェアに参加した。後に述べる JICA 主催の留学フェアもあるが、対象者を特定の国や地域の在住者に絞って留学広報を行うのが、全世界の学生や既に日本に滞在している留学生を対象にする JASSO や日本語学校会場の留学フェアと異なる。オンライン開催だと、時差の都合、日本は夕方や早朝に行うケースも出る。

本学はアフリカの各大学と大学院生の交換留学や合同事業を行う当該事業を行っていることから、アフリカ在住で日本の大学院進学希望者を対象とした留学フェアに参加した。

英語で質疑応答。参加留学生の英語力は高く、各々所持しているスマートフォンやパソコン操作は堪能であるが、通信環境はあまりよくなく、途中でログアウトしたり、音声画像が乱れる学生もいた。

参加学生は各々の専門分野が既に決まっており、各々の専門が深められる進学先を探すために留学フェアに参加しているという意識が明確であり、日本の大学制度や本学の学部・大学院の構成について理解できていない参加者はいなかった。

(1) サブサハラ 大学院文系

①日 程：2021 年 8 月 27 日（金）16：30～17：30

②参加者：紹介動画視聴 6 名・ミーティング参加者 7 名

〔本学関係者〕横田信三（農学部教授・世界展開力強化事業推進室長）・阪本公美子（国際学部教授・同副室長）、夏秋知英（特命教授・世界展開力強化事業コーディネーター）、神戸幸（国際交流企画係長）

③場 所：オンライン（Zoom）

④進 行：本学紹介動画を放映後、グループミーティング形式で、留学希望者の進学相談を受けた。

⑤質問等：・本学で利用できる奨学金全般

- ・国費留学生への応募方法
- ・日本語教授方法を習得できる短期プログラムあるか（夏休みの間に履修等）
- ・入学や修了に必要な語学力はどの程度か
- ・大学院生が居住できる学寮はあるか

(2) サブサハラ 大学院理系

①日 程：2021 年 9 月 10 日（金）16：30～17：30

②参加者：紹介動画視聴 5 名・ミーティング参加者 6 名

〔本学関係者〕横田信三（農学部教授・世界展開力強化事業推進室長）・夏秋知英（特命教授・世界展開力強化事業コーディネーター）・神戸幸（国際交流企画係長）

③場 所：オンライン（Zoom）

④進 行：本学紹介動画を放映後、グループミーティング形式で、留学希望者の進学相談を受けた。

⑤質問等：・本学で利用できる奨学金全般

- ・希望する専攻を研究できる研究室が本学にあるか
- ・博士課程（D）で学びたい、進学方法

4.4 JICA 主催留学フェア

国際協力機構（JICA）が主催する留学フェアに参加した。当フェアへの参加は初めてとなる。JICA が連携する各国機関が運営する留学フェアに参加する形式である。

(1) 2021 年度 JICA 主催日本留学フェア “Online Study-in-Japan Fair 2021”（カンボジア）

1) 主催等

- ①主催：カンボジア日本人材開発センター（Cambodia-Japan Cooperation Center, CJCC）
- ②共催：岡山大学（文部科学省日本留学海外拠点連携推進事業 ASEAN 拠点）

2) 実施概要（開催日程及び参加機関）

- ① 10月22日（金）～24日（日）1st Week of University Timeline for fair day 4大学、1機関
- ② 10月29日（金）～31日（日）2st Week of University Timeline for fair day 5大学、1機関
- ③場所 特設ウェブサイト及びSNSサイト（Facebook）、オンライン（Zoom）
- ④参加費：オプション1（1,500USD）を選択。
- ⑤関係サービス：フェア参加のほか、フェアサイト内の本学情報ページの1年間（2021年11月～2022年10月）公開及びフォロー&サポート有。

3) 本学概要

① Online Seminar

日時：10月24日（日）17：00～18：00（カンボジア時間15：00～16：00）

出席者：カンボジア在住の高校生・大学生・社会人等約70アカウント

〔本学関係者〕横尾昇剛（留学生・国際交流センター長）・飯塚明子（同助教）・重田康博（国際学部教授）・カンボジア出身の留学生2名（地域創生科学研究科D1・連合大学院D1）・事務職員2名

内容：CJCCの総合司会者によるガイド及び本学出席者自己紹介・大学概要説明・留学生による留学体験談・質疑応答。

その他：

- ・会場公用語はCJCCにより英語指定。
- ・本学留学生は体験談作成にあたり、2名で打ち合わせて内容を調整し、スライドを作成。本学に進学するまでの経緯、本学進学後の日常生活、キャンパス周辺の商店街や治安等、進学費用工面の体験談（アルバイト、奨学金等）、研究室での日常、等を講話した。



- ・質疑応答：本学で受給できる奨学金の種類／出国せずに受験できるか／英語で卒業（修了）可か／EJUとは。

② Consultation Session

日時：10月26日（火）16：00～17：45（カンボジア時間14：00～15：45）

出席者：横尾昇剛（留学生・国際交流センター長）・飯塚明子（同助教）・事務職員2名・カンボジア出身の留学生2名（地域創生科学研究科D1・連合大学院D1）・CJCC職員（相談者と我々の仲介や随時の通訳（クメール語／英語）、

相談者数：4名

相談内容：

- ・高校生、学部生、親戚の子の代わりに相談に来た社会人等。
- ・多少複雑な説明が入ると、本学留学生や CJCC 職員がクメール語で説明することになった。
- ・奨学金の獲得方法
- ・本学研究科への進学方法。
- ・国費留学生、学習奨励費。

(2) 2021 年度 JICA 主催日本留学フェア（ラオス） Online Study in Japan Fair in Laos 2021

1) 主催等

- ①主催：ラオス日本人材開発センター（LJI）

2) 実施概要

①開催日程及び参加機関

日時：2021 年 10 月 27 日（水）

参加機関：日本大使館・JASSO Tokyo/Osaka Japanese Language Education Centers・9 大学

②場所：特設ウェブサイト・SNS サイト（Facebook）・オンライン（Zoom）

③全体次第：

Opening ceremony

Opening speech（ラオス国立大学長）

Explanation on Japanese scholarship in Laos（日本大使館）

Explanation on study in Japanese University

Exhibition, Q&A online by using Zoom

④参加者数：Opening ceremony 時は約 190 アカウント。

本学大学概要説明時は約 70 アカウント。

午後（ラオス時間）のグループ相談会場へは累計 12 アカウント来場。

⑤参加費及び関係サービス：500USD・フェア参加。

3) 本学概要（※ 前半の全体行事が大幅に遅れ、午後の各機関説明等も遅れての開催となった。）

a) Explanation on study in Japanese University

①時 間：当初予定 13：00～13：15 のところ、14：10～14：25

（ラオス時間 11：00～11：15 のところ、12：10～12：25）

②出席者：飯塚明子（留学生・国際交流センター助教）・ラオス出身の留学生 1 名（地域創生科学研究科 M2）

③説明内容：本学の位置（日本・県内・近隣）、栃木県の風土（産業・文化）、学部・研究科構成、協定校数、留学生数、学生寮（国際交流会館）、学費・主な奨学金、通学方法や文化体験等のキャンパスライフ紹介、担当連絡先、等。

④その他：

- ・会場公用語は英語とラオス語混在。日本語堪能な LJI 職員が参加していた。
- ・ラオス国立大学長あいさつだけ、日本語の同時通訳が入っていた。
- ・参加大学は、①スライドは英語・説明はラオス語、②スライドはラオス語（英語スライドを LJI が翻訳）・説明は英語、③スライドは英語・説明は英語でラオス語同時通訳から、説明手段を選択できた。本学は②を選択した。（本学プレゼンターの飯塚教員作成の英語スライドを、事前に LJI に送り、LJI がラオス語に翻訳。）
- ・一方で、他大学は①英語のパワーポイントを（各大学のラオス人教員等が）



ラオス語で説明していた大学が多かった。

b) Q&A online by using Zoom

①時 間：15：30～17：30（ラオス時間13：30～15：30）

②出席者：横尾昇剛（留学生・国際交流センター長）・飯塚明子（同助教）・杉田直樹（農学部准教授）・
ラオス出身の留学生1名（地域創生科学研究科M2）・LJIからの通訳（ラオス語／英語）・
センター事務室2名

③相談内容：

- ・高校生、学部生、社会人。当初9人ログインし、6名質問せず退席。日本時間16：50頃遅れて3人ログインし、17：00終了予定を超過した。
- ・環境工学、電気電子工学、経済分野（農業経済）
- ・相談者の英語能力はほぼなく、本学学生及びLJIに通訳をほぼ全てお願いした。
- ・入学に必要な英語力、日本語力は。授業は英語で履修できるか。
- ・修士課程（私費外国人選抜）への出願方法。奨学金の申請方法。
- ・実験のみで卒業（修了）できるか。

④その他：

- ・学部進学希望者は、非常にシャイでありあまりしゃべらず志望と違うとログアウトしてしまった。
- ・大学院進学希望者で、英語も比較的通じ、大学制度に関する基本的な理解もあり、ほかの国の留学生対象の留学フェアと変わらない対応になった。

4.5 交換留学生のための大学院進学説明会

例年は、本学への交換留学生の本学各研究科への留学を奨励し、その教育・研究の特色や入試内容・日程等に関する情報を提供する目的で、平成23年度から「交換留学生のための大学院進学説明会」の開催している。2021年度は、対象となる来日留学生が少ないことから中止した。

（留学生・国際交流室）

5 日本人学生の海外派遣・留学の推進・支援

5.1 海外留学説明会

グローバル人材の育成が叫ばれている今日、留学生・国際交流センターでは、海外に目を向け、交換留学はもちろん、短期の語学留学などに積極的にチャレンジしようとする学生を育成するため、例年、学生に対する様々な説明会を開催している。

2021年度は、COVID-19の影響で全ての留学関係説明会をオンラインで実施した。

(1) 学部新入生向け留学ガイダンス

- ①日 時：令和3年4月20日（火）～
- ②実施形態：オンデマンド開催
- ③内 容：
 - 1) 新型コロナウイルス感染症の影響
 - 2) 海外英語研修・国際インターンシップについて
 - 3) 交換留学について
 - 4) 各学部等によるプログラムについて
 - 5) 奨学金について
 - 6) 今後の説明会スケジュール

(2) 交換留学説明会

<第1回>

- ①日 時：令和3年6月29日（火）16：00～17：00
- ②実施形態：オンライン（ZOOM）
- ③内 容：交換留学に関する説明

<第2回>

- ①日 時：令和3年9月8日（水）～
- ②実施形態：オンデマンド開催
- ③内 容：
 - 1) 交換留学制度に関する各種説明
 - 2) 海外留学と就職について
 - 3) 単位認定制度について

(3) 交換留学フェア

- ①日 時：令和3年9月27日（月）～令和3年9月30日（木）
13：00～16：00
- ②実施形態：Zoomによるオンライン開催
- ③内 容：交換留学からの帰国留学生による国・地域別体験報告会及び質疑応答

時間	2021年9月27日 (月曜日)	2021年9月28日 (火曜日)	2021年9月29日 (水曜日)	2021年9月30日 (木曜日)
13:00～14:00	①中国 (東海大学)	②タイ	③ポーランド	④オーストラリア
14:00～15:00	⑤韓国	⑥マレーシア	⑦ロシア (ツインメンズ大学)	
15:00～16:00	⑧韓国		⑨アメリカ (シラカ大学)	

(留学生・国際交流室)

5.2 国際インターンシップ

宇都宮大学の「グローバル人材育成プログラム」の一環として、2012年度から、海外の企業の支社や事業所、NGOや教育機関等で就労体験を行う国際インターンシップを実施している。

しかし、2020年度はCOVID-19の影響により、夏期の実施を中止としたが、春期からオンラインでのインターンシップを実施することとなり、2021年度もオンラインでの実施を継続している。

10年目となる本年度は、夏期インターンシップに3名、春期インターンシップに3名の合計6名をマレーシア、台湾の企業団体、大学へインターン生として派遣することができた（下記「(3) 派遣実績」参照）。

留学生・国際交流センターでは、夏期及び春期の休暇中の約2～4週間の実習に先立ち、体験者の報告をはじめ、国際インターンシップの概要やその手続などの説明を目的とした報告・説明会を以下の通り開催した。

また、運営面では留学生・国際交流センター長をグループ長とする「国際インターンシップ・ワーキング・グループ(WG)」(下記「(4)」参照)が中心となり、応募者の面接や選考のほか、各種手続き等への助言指導を行った。今後も引き続き危機管理体制の充実、実渡航を伴う実習の復活、受入団体等の拡充を図っていくこととしたい。

(1) 令和2年度春期「国際インターンシップ」報告会及び令和3年度夏期 実施概要説明会

- ①日 時：令和3年5月19日(水) 18:00～19:30
- ②場 所：オンライン開催 (Zoom 使用)
- ③参加者数：学生14名・教職員8名・受入先関係者3名 合計：25名
- ④内 容：

(進行) 横尾昇剛 (留学生・国際交流センター長)

- 1) 開会挨拶：渡邊信一 (ものづくり創成工学センター准教授)
- 2) 令和2年度春期参加学生報告 (2名)
 - ・Insar Tours & Travel (マレーシア)：Doan Nguyen Khoi (国際学部2年)
 - ・台北城市科技大学 (台湾)：小林隼平 (工学部 機械システム工学科4年)
- 3) 受入団体ご担当者様からのコメント
 - ・Insar Tours & Travel (マレーシア)：
 - 常務取締役 鍋嶋誠一朗 様
 - ・台北城市科技大学応用外国語学科：
 - 藤原真也先生・平田ひかる先生
 - ・サインアートデザイン社：
 - 代表取締役 ダン ホアン ユイ様
- 4) 令和3年度夏期国際インターンシップ説明：
 - 栗原謙治 (コーディネーター)
- 5) 閉会挨拶：重田康博 (国際学部教授)

(2) 令和3年度夏期「国際インターンシップ」報告会及び令和3年度春期実施概要説明会

- ①日 時：令和3年12月10日(金) 18:00～19:10
- ②場 所：オンライン開催 (Zoom 使用)
- ③参加者数：学生8名・教職員6名・受入先関係者1名 合計：15名
- ④内 容：

(進行) 中道利久 (コーディネーター)

- 1) 開会挨拶：横尾昇剛 (留学生・国際交流センター長)

令和3年度夏期報告、3年度春期募集
国際インターンシップ
参加者募集説明・報告会

開催日時 2021年12月中旬(近日決定)
18:00～19:30
開催方法 オンライン開催 (Zoom使用)

今夏実施のオンライン国際インターンシップ参加学生による報告会と、来春実施の国際インターンシップの説明会を行います。「リモートワークを体験してみたい」、「海外の仕事を通じて現地の様子も知りたい」など、インターンシップの参加を検討したい方は、ぜひご出席ください。

報告会参加 事前申込
参加用URLをお送りしますので、下記アドレスまでご連絡ください。
uiintern@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp
※申込締切 決定次第発表します

※このインターンシップもオンラインで実施予定です。

参考)2021年度夏期オンライン国際インターンシップ概要

- ◆実施期間:2022年2月～3月
- ◆実習受入先(予定)は、次頁のとおり

列 席：全学部学生、大学院生

問合せ先：留学生・国際交流センター事務局
棟キャンパス4号館A棟1階グローバルセンター
TEL:028-649-8179
Mail: uiintern@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

- 2) 令和3年度夏期国際インターンシップ参加学生報告 (3名)
 - ・ Insar Tours & Travel (マレーシア) :
 - 三根恵里花 (国際学部4年)・工藤諒也 (国際学部3年)・中川 莉里花 (国際学部2年)
- 3) 令和3年度春期国際インターンシップ説明: 中道利久 (コーディネーター)
- 4) 閉会挨拶: 飯塚明子 (留学生・国際交流センター助教)

(3) 派遣実績

①令和3年度 夏期国際インターンシップ

	氏名	学部・研究科	学年	実習先企業	実習期間	実習国
1	三根 恵里花	国際学部	4	Insar Tours & Travel	8/16 ~ 9/1	マレーシア
2	工藤 諒也	国際学部	3			
3	中川 莉里花	国際学部	2			

②令和3年度 春期国際インターンシップ

	氏名	学部・研究科	学年	実習先企業	実習期間	実習国
1	澤田 のどか	農学部	1	Insar Tours & Travel	2/25 ~ 3/10	マレーシア
2	Doan Nguyen Khoi	国際学部	2	台北城市科技大学	3/7 ~ 3/25	台湾
3	佐藤 美空	国際学部	1			

(4) 国際インターンシップ・ワーキング・グループ (WG) の構成 (令和3年度)

所 属	氏 名	所属部局	職 名
グループ長	横尾 昇剛	留学生・国際交流センター	センター長 (兼地域デザイン科学部教授)
グループ員	山岡 暁	地域デザイン科学部	教授
	重田 康博	国際学部	教授
	吉田 一彦	国際学部	教授
	渡邊 信一	ものづくり創成工学センター	准教授
	天沼 実	共同教育学部	教授
	福村 一成	農学部	准教授
	湯本 浩之	留学生・国際交流センター	副センター長
	飯塚 明子	留学生・国際交流センター	助教
	中道 利久	留学生・国際交流センター	コーディネーター
事務局	田崎 正憲	留学生・国際交流センター	事務室長
	神戸 幸	留学生・国際交流センター	係長

5.3 海外渡航前危機管理オリエンテーション

留学生・国際交流センターでは、海外留学の推進を行うと同時に、複雑化する国際情勢や自然災害などから生じる危機について、学生一人一人の意識の涵養を図るため、例年、「海外渡航前危機管理オリエンテーション」を開催している。これは、交換留学をはじめ、海外英語研修や国際インターンシップ等の大学主催プログラムで海外留学する学生に参加を義務付けるとともに、夏休みなど長期休業期間を利用して自ら海外に渡航する学生も対象としたものである。

2021年度は、8月と11月の計2回実施した。加えて、海外へ渡航する学生は、本学副学長による個別面談を行い、新型コロナウイルス感染症の影響下での海外留学における危機管理についての指導を徹底した。

(1) 令和3 (2021) 年度第1回海外渡航前危機管理オリエンテーション

- ①日 時: 令和3年8月3日 (火) 14:20 ~ 15:30
- ②実施形態: 対面 (峰キャンパス4号館4A31教室)

- ③内 容：1) 海外渡航・滞在時の諸注意と各種手続きについて
2) 新型コロナウイルス感染症の影響下における渡航について
3) 再入国時に守るべきルールについて
4) 質疑応答

(2) 令和3(2021)年度第2回海外渡航前危機管理オリエンテーション

- ①日 時：令和3年11月29日(月) 10:00～11:00
②実施形態：対面(峰キャンパス4号館4B103室)
③内 容：(1)と同様

5.4 海外英語研修

本年度は、マレーシアのサラワク大学との海外英語研修をオンラインで実施したほか、オーストラリアのサザンクロス大学とカナダのカピラノ大学との英語研修は、COVID-19の影響により中止とした。

(1) マレーシア・サラワク大学

宇都宮大学が大学間交流協定を結んでいる(2017年度締結)マレーシアのサラワク大学の協力を得て、2018年度から毎年2月に英語研修プログラムを実施している。本研修は、授業による英語能力の向上だけでなく、多民族国家であるマレーシアの自然環境豊かなボルネオ島サラワク州において、英語運用能力の高いサラワク大学生のバディと共に過ごす寮生活・課外活動を通じて、多文化共生や生物多様性などのテーマ理解を深めることも目的としたプログラムとなっている。

今年も昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、10月の参加募集時期になっても2月の渡航の目途が立たなかったため、日本に滞在したままで、国際交流及び語学研修が可能なオンライン留学プログラムとして実施した。

①実施概要

- 1) 研修先：国立マレーシア・サラワク大学
(UNIMAS) オンライン講義

- 2) 参加学生数：学部生 28名

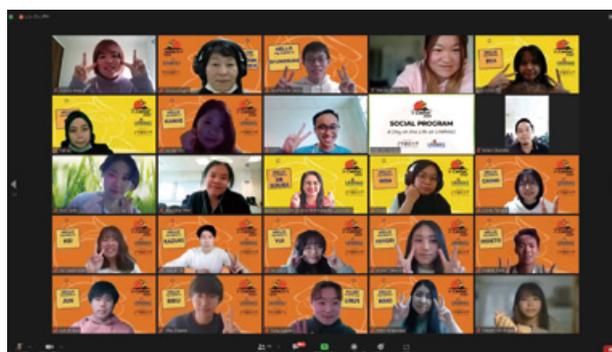
<内訳>

学部：地デザ2名／国際15名／教育4名／工学3名／農学4名

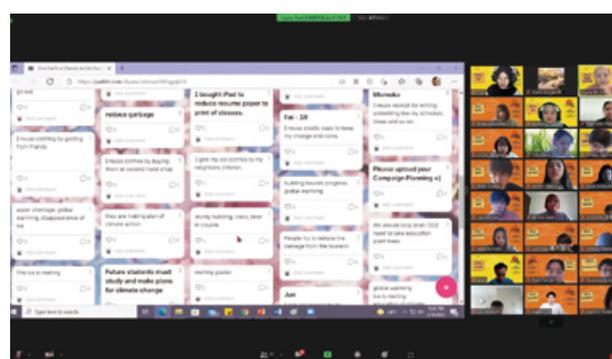
学年：1年生7名／2年生15名／3年生6名
／4年生0名

- 3) 関係教員：

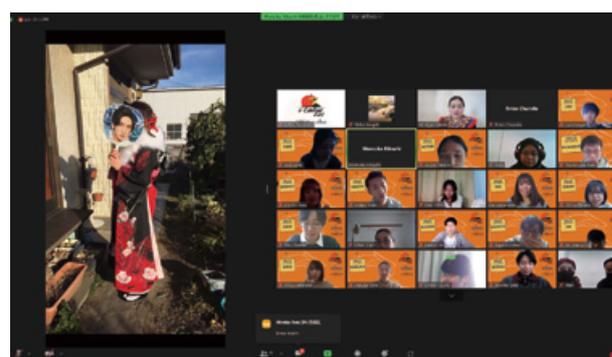
大久保達弘(農学部)／出羽尚(国際学部)／
天沼実・山野有紀(共同教育学部)／高橋俊守



オンライン研修の様子



研修中にアイデアを出し合う様子



振袖を紹介する宇大生

(地域デザイン科学部) / 飯塚明子 (留学生・国際交流センター)

4) 実施スケジュール

募集説明会：2021 年 10 月 22 日 (金)

募集期間：10 月 22 日 (金) ~ 11 月 8 日 (金)

第 1 回事前研修：12 月 10 日 (金)

講話「プログラム紹介とオンライン研修参加のポイント」

講師：大久保達弘 (農学部)

第 2 回事前研修：12 月 17 日 (金)

講話「サラワクの地理、民族・言語・宗教、生き物、熱帯林について学ぼう」

講師：大久保達弘 (農学部)

第 3 回事前研修：2022 年 1 月 21 日 (金)

講話「What is Malaysia?-From a Malaysian living in Japan」

講師：Emily Choong (基盤教育センター EPUU Clinic Trainer)

第 4 回事前研修：2 月 10 日 (木)

講話「Introduction to English Pronunciation for UU Students」

講師：Souba Rethinasamy (Universiti Malaysia Sarawak)

研修期間：2 月 14 日 (月) ~ 2 月 19 日 (土)

②研修概要

1) オンライン英語研修：

サラワク大学言語コミュニケーション学部の英語の専門教員複数名による、様々なオンラインツールを用いた集中英語研修を実施 (9:30 ~ 15:00)。

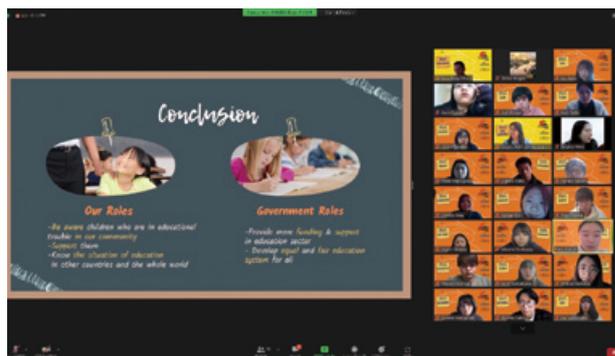
授業では、SDGs を意識した内容を取り入れ、最終日には宇大生による SDGs に関連した発表があった。クロージングセレモニーは、Professor Kamarudin Kana (Deputy Vice Chancellor) と横尾センター長によるスピーチから始まり、学生による詩や歌の朗読、ダンスの披露などがあった。

今年度のオンライン英語研修は、コロナ禍においても学生同士が交流できる機会をつくるため、第 1 回事前研修、第 2 回事前研修、クロージングセレモニーは対面で授業を行い、マレーシアとはオンライン繋がるハイブリッド型で行った。

2) オンライン Social Program と Activity with buddies (課外プログラム)：

サラワクの歴史や文化、自然環境を学び、バディ

と国際交流を推進するため、Social Program (15:00 ~ 16:30) と Activity with buddies (1 日) を実施。サラワク大学の概要、研究室訪問、市内散策、小学校の訪問、伝統衣装や食物の紹介などを行った。また、宇大生も日本文化を紹介し国際的な文化交流を行った。



学生のプレゼンテーションの様子



サラワクの伝統衣装を着て歌うバディ



池田学長のスピーチ

3) オンライン研修報告会：2022年3月11日（金）

報告会には、宇都宮大学とサラワク大学の教職員や学生等55名が参加した。まず、宇大生が研修を振り返り各自でコメントをした後で、SDGsに関連したグループプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションをもとに、サラワク大学の教員や学生、宇都宮大学教員が質疑応答やフィードバックのコメントをして、最後に Ahmad Hata Rasit 副学長（Deputy Vice Chancellor Academic & International）と、池田学長が閉会の挨拶を行った。

研修期間中、サラワク大学の学生がバディとして10名参加し、英語の授業、Social Program、最終プレゼンテーションの作成をサポートしてくれた。

(2) オーストラリア・サザンクロス大学

オーストラリアのニューサウスウェールズ州にあるサザンクロス大学が提供する英語研修プログラムを毎年8月後半に実施している。本研修では、英語の運用能力向上を主目的とした集中授業、オーストラリアの自然や文化に触れられるような課外活動を含む。加えて、参加学生は滞在期間を通じてオーストラリアの家庭にホームステイをし、現地の生活に触れる。

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大に伴い渡航が困難な状況が続いており、入国制限措置の緩和がみられず、募集説明会と参加者募集を行う5月時点で海外に渡航できる目途が立たなかったため、説明会及び参加募集は行わず中止した。

(3) カナダ・カピラノ大学

交流協定締結に向けて交渉中のカナダ、ブリティッシュ・コロンビア州立カピラノ大学にて、2019年度から英語研修プログラムを実施している。このプログラムは、他の海外英語研修参加者を含む中級以上の学生を対象として生まれ、バンクーバー都市圏の先住民地域や日系社会を含む多文化主義社会と大自然の利を生かしたカリキュラムになっている。学術目的の英語運用能力の獲得を目的とし、コースワークとフィールドトリップを組み合わせている点が特徴である。

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、募集説明会と参加者募集を行う10月時点で海外に渡航できる目途が立たなかったため、説明会及び参加募集は行わず中止した。



クロージングセレモニーの様子

5.5 海外渡航危機管理サービス

グローバル人材育成の観点から、積極的に学生の海外留学を推進する一方、海外ではテロ、事件・事故、災害など各種のリスクが存在する。このことから、留学生・国際交流センターでは、これらのリスクに対応するため海外渡航危機管理サービスを導入した。このことにより、現地にいる学生へ危険情報の連絡や災害などが発生した際の安否確認ができるシステムを活用し、現地にて学生が困ったことが発生した時には 24 時間電話相談ができるサービスを受けられる体制を導入し、安心して海外留学ができる体制を構築している。

(留学生・国際交流室)



6 各種協議会等への参加

本年度は以下のような各種協議会に教職員を派遣し、国際交流や留学生支援などに関する経験交流や情報収集に努めた。

6.1 令和3年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議

(1) 実施概要

- ①開催形式：メール発信
- ②資料発出：令和3年11月10日（水）
- ③主催大学：佐賀大学

(2) 送付資料

I 政府等機関の所管事項・事業等説明資料（PDF）

- 1) 文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室
・留学生交流の最新動向
- 2) 外務省領事局海外邦人安全課
・たびレジ登録と外務省における情報発信について
- 3) 独立行政法人 日本学生支援機構（JASSO）
・日本学生支援機構が実施する留学生支援事業
- 4) 独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）
・高度外国人材活躍推進ポータル OFP リストについて
・外国人留学生向けジェトロオンライン合同企業説明会について

II 各国立大学法人からの承合事項及び回答一覧（Excel）

- 1) オンライン留学プログラムについて（山梨大学）
- 2) 日本語能力について（奈良教育大学）
- 3) 宿舎について（愛媛大学・埼玉大学・奈良先端科学技術大学院大学）
- 4) 海外派遣について（室蘭工業大学・埼玉大学・長崎大学）
- 5) 在留資格について（大阪教育大学・金沢大学・三重大学）
- 6) 授業料について（静岡大学）
- 7) ダブルディグリープログラムについて（福島大学）
- 8) 留学生の就職について（和歌山大学）
- 9) 講義について（高知大学、東京学芸大学）
- 10) 留学生の生活支援について（大阪教育大学、鳥取大学）
- 11) 安全保障輸出管理体制について（岩手大学）
- 12) 新型コロナウイルス感染症関連（北見工業大学・千葉大学・高知大学・島根大学・山形大学・東京農工大学・北陸先端科学技術大学院大学・岩手大学・福岡教育大学・群馬大学・東京学芸大学・北海道大学・福井大学・岡山大学・鳥取大学・東京医科歯科大学）

III 2つの全国国際系会議の統合に向けての検討状況（PDF）

- 1) 2つの全国国際系会議の統合に向けての検討状況
- 2) 留学生センター長及び留学生課長等合同会議 今後の運営方針等について
- 3) 事後アンケート集計結果

IV 事務担当者名簿（Excel）

V 当番大学一覧（PDF）

6.2 令和3年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会

(1) 実施概要

- ①開催形式：オンライン（Webex）
- ②資料発出：令和3年11月17日（水）13時30分～16時15分
- ③主催大学：京都大学

(2) テーマ・次第

- ①テーマ「コロナ時代の大学の国際交流－国際的な往来再開を見すえて－」
- ②次第（敬称略）

受付／開会挨拶

「科学技術の国際展開について」

文部科学省科学技術・学術政策局参事官（国際戦略担当）付 企画官 久永幸博

「国際教育交流担当職員長期プログラム（LEAP）について」

文部科学省大臣官房国際課 課長補佐 齋藤康行

「国際的な研究交流支援に関する事業概要」

独立行政法人日本学術振興会国際統括本部国際事業部研究協力第二課 課長 小寺孝太郎

「安全保障貿易管理と大学・研究機関における機微技術管理について」

経済産業省貿易経済協力局貿易管理部安全保障貿易管理課 課長補佐 金谷学

「『みなし輸出』管理の明確化について」

経済産業省貿易経済協力局貿易管理部安全保障貿易管理政策課 課長補佐 木佐允彦

「組織変遷にみる大学国際化の進展」

九州大学 名誉教授 緒方一夫

大阪大学グローバルイニシアティブ機構 准教授 大林小織

事務連絡／次回当番挨拶（熊本大学）／閉会挨拶

6.3 令和3年度国立大学法人留学生センター等留学生指導担当研究協議会

(1) 実施概要

- ①日 時：令和3年7月5日（月）13：00～16：30
- ②開催方法：オンライン（Zoom）
- ③主催大学：東京大学グローバルキャンパス推進本部国際化教育支援室
- ④本学参加者：飯塚明子（留学生・国際交流センター助教）、ほか。

※ オンライン開催となって、各大学からの出席者、すなわち各講演の視聴者に人数制限を設けないこととなった。よって、本学内でも教職員対象に出席者募集について広く周知し、当センター以外からも参加があった。

(2) プログラム

開会挨拶

第Ⅰ部 基調講演「留学生の出入国の最新動向及び留学生事業について」

文部科学省高等教育局学生・留学生課 課長補佐 泉茂樹

第Ⅱ部 オンライン時代の国際教育・留学生支援：多様な状況を前提とした教育・支援の留意点

1) オンライン講義－ユニバーサルデザインと合理的配慮

東京大学先端科学研究センター 准教授 近藤武夫

2) オンラインでの相談・支援における留意点

東京大学相談支援研究開発センター学生相談所所長 高野明

第Ⅲ部 情報交換の場（コロナ禍の留学生相談・指導について）

テーマ：「留学生指導に関連した各大学の取り組みに関する情報交換等」

内 容：所属大学の留学生数（在籍留学生 500 名未満／以上）を目安に、15 分 × 2 回のブレイクアウトセッション。

6.4 2021 年度第 2 回国立大学法人留学生指導研究協議会 （兼：第 55 回大阪大学留学生教育・支援協議会）

(1) 実施概要

- ①日 時：2022 年 2 月 10 日（木）13：00～18：00（情報交換会含む）
- ②開催方法：オンライン（Zoom）
- ③主催大学：大阪大学国際教育交流センター
- ④テ ー マ：「コロナ禍 2 年目の留学生受け入れ体制と具体的取組」
- ⑤本学参加者：飯塚明子（留学生・国際交流センター助教）

(2) プログラム

- I. 留学生受入れに関する施策「留学生交流に係る最新状況と令和 4 年度関連予算案について」
文部科学省高等教育局学生・留学生課 山田貴生
- II. 事例紹介「コロナ禍 2 年目の留学生受け入れ体制と具体的取組」
「コロナ禍の留学生支援～東北大学の事例～」
東北大学 グローバルラーニングセンター 准教授 渡部留美
「在外留学生に対応した東京工業大学における支援活動の取り組みについて」
東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院 准教授 佐藤礼子
- III. 分科会「コロナ禍 2 年目の留学生受け入れ体制と具体的取組」
A：「(来日等) 不確定な状況での留学生受入体制と具体的取組」
ファシリテーター：金沢大学理工研究 准教授 岸田由美
東京医科歯科大学統合国際機構 助教 米本和弘
B：「相談対応（カウンセリング・アドバイジングなど）」
ファシリテーター：岡山大学全学教育・学生支援機構 教授 宇塚万里子
鹿児島大学グローバルセンター 講師 市島佑起子
C：「留学生と日本人など一般学生等の交流」
ファシリテーター：名古屋大学国際教育交流センター 教授 田中京子
神戸大学国際連携推進機構国際教育総合センター 准教授 黒田千晴
D：「留学生のキャリア支援」
ファシリテーター：静岡大学国際連携推進機構 准教授 袴田麻里
秋田大学高等教育グローバルセンター 准教授 市嶋典子
- IV. 各分科会からの報告と全体討論
オンライン情報交換会

6.5 令和3年度日本語・日本文化研修留学生問題に関する検討会

(1) 実施概要

- ①日 時：令和3年11月19日（金）13：30～17：00
- ②場 所：オンライン開催（Zoom）
- ③主催大学：大阪大学日本語日本文化教育センター
- ④本学参加者：飯塚明子（留学生・国際交流センター助教）

(2) プログラム

開 会

開催大学挨拶／会議日程説明／出席者紹介

議 事

- 1) 大学等における国際交流に関する現状と取組
文部科学省 高等教育局 学生・留学生課留学生交流室長 高橋 一郎
- 2) 質疑応答
- 3) 拠点事業紹介
- 4) 報告＜1＞ 修了論文・レポート作成にみる日研究生教育（千葉大学・京都大学）
- 5) 質疑応答
- 6) 報告＜2＞ 日研究生の連携教育とキャリア形成（新潟大学・関西大学）

閉 会

箕面新キャンパス見学会

情報交換会

（留学生・国際交流室）

III 資 料

1 留学生在籍状況

(1) 留留学生種別在籍者数 (2021年5月現在)

	種 別	所 属	人 数	小 計
正規生	学 部	地域デザイン科学部	7	53
		国際学部	23	
		教育学部・共同教育学部	3	
		工学部	12	
		農学部	8	
	大学院	地域創生科学研究科	127	157
		国際学研究科	6	
		工学研究科	11	
		連合農学研究科	13	
非正規生	研究生	地域デザイン科学部	6	32
		国際学部	7	
		共同教育学部	11	
		工学部	2	
		農学部	1	
		地域創生科学研究科	4	
		連合農学研究科	0	
		留学生・国際交流センター	1	
	特別聴講学生 (協定校との交換留学生)	3	3	
	特別研究学生	0	0	
	日本語・日本文化研修留学生	3	3	
	教員研修留学生	0	0	
	合 計			260

(2) 国・地域別留学生数 (国・地域数：20カ国・地域) ※ 香港を含む

国 名	人 数	国 名	人 数	国 名	人 数
中国	167	ガーナ	3	ブラジル	1
マレーシア	24	タイ	2	メキシコ	1
モンゴル	12	ウズベキスタン	1	ラオス	1
ベトナム	8	エジプト	1	台湾	1
バングラデシュ	7	オマーン	1		
インドネシア	5	ガボン	1		
カンボジア	5	スリランカ	1		
韓国	5	バハマ	1		

2 国際交流協定校との受入・派遣状況一覧

(1) 大学間交流協定校との学生派遣・受入実績

大 学 名	国(地域)名	区分	年度				
			H29	H30	H31	R2	R3
浙江工業大学	中国	派遣			0		
カセサート大学	タイ	派遣	3	2	2	0	0
復旦大学	中国	派遣	0				
ビクトリア大学	オーストラリア	派遣					
		協定校私費			0		
祥明大学校	韓国	派遣	4	1	4	0	1
ノーザン・プリティッシュ・コロンビア大学	カナダ	派遣	2	1	1	0	
		協定校私費	1		0		
電子科技大学	中国	派遣					
エアランゲン大学	ドイツ	派遣	4	3	3	1※	0
浙江師範大学	中国	派遣					
浙江大学	中国	派遣	1	2	3	0	0
内蒙古農業大学	中国	派遣					0
ボゴール農科大学	インドネシア	派遣				0	0
寧波大学	中国	派遣		0	3	0	0
国立台湾師範大学	台湾	派遣	2	2	2	2※	2※
		協定校私費					
香港大学	中国	派遣	2		1	0	
国立政治大学	台湾	派遣	1	1	1	2※	0
パラツキー大学	チェコ	派遣	2	2	2	0	1
モンゴル人文大学	モンゴル	派遣	1				
ダッカ大学	バングラデシュ	派遣					
モンゴル生命科技大学	モンゴル	派遣		1			
蓮庵大学	韓国	派遣					
		派遣					
ノースダコタ大学	アメリカ	協定校私費					
オルレアン大学	フランス	派遣	2	1	2	0	2
アジア工科大学	タイ	派遣				0	
全北大学校	韓国	派遣		0	0	0	1
東フィンランド大学	フィンランド	派遣		0			
慶北大学校	韓国	派遣	1	0	2	0	0
トライン大学	アメリカ	派遣	2	2	2	0	0
		派遣					
アイルランド国立大学ダブリン校	アイルランド	ダブルディグリー					
王立プノンベン大学	カンボジア	派遣	2	3	3	0	
ガジャマダ大学	インドネシア	派遣					
		派遣	2	2	2	0	2
ヴインセンス大学	アメリカ	協定校私費			1	0	
ポンティフィシアカトリック大学	ペルー	派遣	1	1	1	0	0
		派遣		0	3	0	3※
サラワク大学	マレーシア	協定校私費			1		
ダナン科学技術大学	ベトナム	派遣					
ペラデニヤ大学	スリランカ	派遣		1	0		0
ガーナ大学	ガーナ	派遣		1	1	0	3
パジャジャラン大学	インドネシア	派遣					
国立中興大学	台湾	派遣					
アディスアベバ大学	アフリカ	派遣					
ネルソンマンデラ アフリカ科学技術大学院大学	アフリカ	派遣					
合 計			33	26	40	5	15

大 学 名	国(地域)名	区分	年度				
			H29	H30	H31	R2	R3
浙江工業大学	中国	受入		1			
カセサート大学	タイ	受入	3	4	2		
復旦大学	中国	受入					
ビクトリア大学	オーストラリア	受入					

祥明大学校	韓国	受入	4	4	4		
ノーザン・ブリティッシュ・コロンビア大学	カナダ	受入					
電子科技大学	中国	受入	3	2	1		
エアランゲン大学	ドイツ	受入			1		
浙江師範大学	中国	受入	3	3	3		
浙江大学	中国	受入		2	3		
内蒙古農業大学	中国	受入					
ボゴール農科大学	インドネシア	受入					
寧波大学	中国	受入	4	4	4		3※
国立台湾師範大学	台湾	受入	4	4	3		
香港大学	中国	受入	0	1	2		
国立政治大学	台湾	受入	1	1	1		
バラツキー大学	チェコ	受入	1	1			
モンゴル人文大学	モンゴル	受入					
ダッカ大学	バングラデシュ	受入					
モンゴル生命科技大学	モンゴル	受入	1	1			
蓮庵大学	韓国	受入	3				
ノースダコタ大学	アメリカ	受入		1			
オルレアン大学	フランス	受入					
アジア工科大学	タイ	受入					
全北大学校	韓国	受入	3	3	3		
東フィンランド大学	フィンランド	受入					
慶北大学校	韓国	受入	3		2		
トリン大学	アメリカ	受入					
アイルランド国立大学ダブリン校	アイルランド	受入					
王立ブノンペン大学	カンボジア	受入	2	3	3		
ガジャマダ大学	インドネシア	受入	/	/	/		
ヴィンセンス大学	アメリカ	受入					
ボンティフィシアカトリック大学	ペルー	受入					
サラワク大学	マレーシア	受入	/	/	/		
ダナン科学技術大学	ベトナム	受入	/	/	/		
ベラデニヤ大学	スリランカ	受入	/	/	/		
ガーナ大学	ガーナ	受入	/	1	/		
パジャジャラン大学	インドネシア	受入	/	/	/		
国立中興大学	台湾	受入	/	/	/		
アディスアベバ大学	アフリカ	派遣	/	/	/		
ネルソンマンデラ アフリカ科学技術大学院大学	アフリカ	派遣	/	/	/		
合 計			35	36	32	0	3

注 ※は、オンラインで実施。

(2) 部局間交流協定校との学生派遣・受入実績

大 学 名	国(地域)名	本学の締結部局	区分	年度				
				H29	H30	H31	R2	R3
国立暨南国際大学(人文学院)	台湾	国際学部	派遣			0		
東華大学	中国	工学部	派遣					
龍華科技大学	台湾	工学部	派遣					
釜慶大学校	韓国	国際学部	派遣	1	1	1		0
イルクーツク国立大学	ロシア	国際学部	派遣			2	0	
キングモンクット工科大学トンプリー校	タイ	農学研究科	派遣					
齊齊哈爾大学	中国	国際学部	派遣					
ダマスカス大学	シリア	国際学部	派遣					
華南農業大学	中国	国際学部	派遣					
セントラル・ランカシャー大学	イギリス	国際学部	派遣	2	3	2	0	1
国立台北大学	台湾	国際学部	派遣				0	
コリマ大学	メキシコ	国際学部	派遣	2	0			
遼寧科技大学	中国	工学部	派遣					
ハノイ大学	ベトナム	国際学部	派遣	0	2	2	0	
			協定校私費					
トリア大学	ドイツ	国際学部	派遣	3	2	2	0	0
華東理工大学	中国	工学部	派遣					

国立暨南国際大学 (教育学院)	台湾	国際学部	派遣				0	
ペラデニヤ大学	スリランカ	国際学部	派遣	1				
ガーナ大学	ガーナ	農学部	派遣					
ブルサ工科大学	トルコ	農学部	派遣					
東フィンランド大学	フィンランド	工学研究科	ダブルディグリー					
ランブンマンクラット大学	インドネシア	農学部	派遣					
カンボジア王立農業大学	カンボジア	農学部	派遣					
トリサクティ大学	インドネシア	地域デザイン科学部	派遣					
ラオス国立大学	ラオス	農学部	派遣					
ベトナム国家農業大学	ベトナム	農学部	派遣					
モンゴル科学技術大学	モンゴル	農学部	派遣					
タマサート大学	タイ	国際学部	派遣				0	
ノアカリ科学技術大学	バングラデシュ	工学部・工学研究科	派遣					
上海交通大学	中国	工学部・工学研究科・地域創生科学研究科	派遣					
コンケン大学	タイ	農学部	派遣					
合 計				9	8	9	0	1

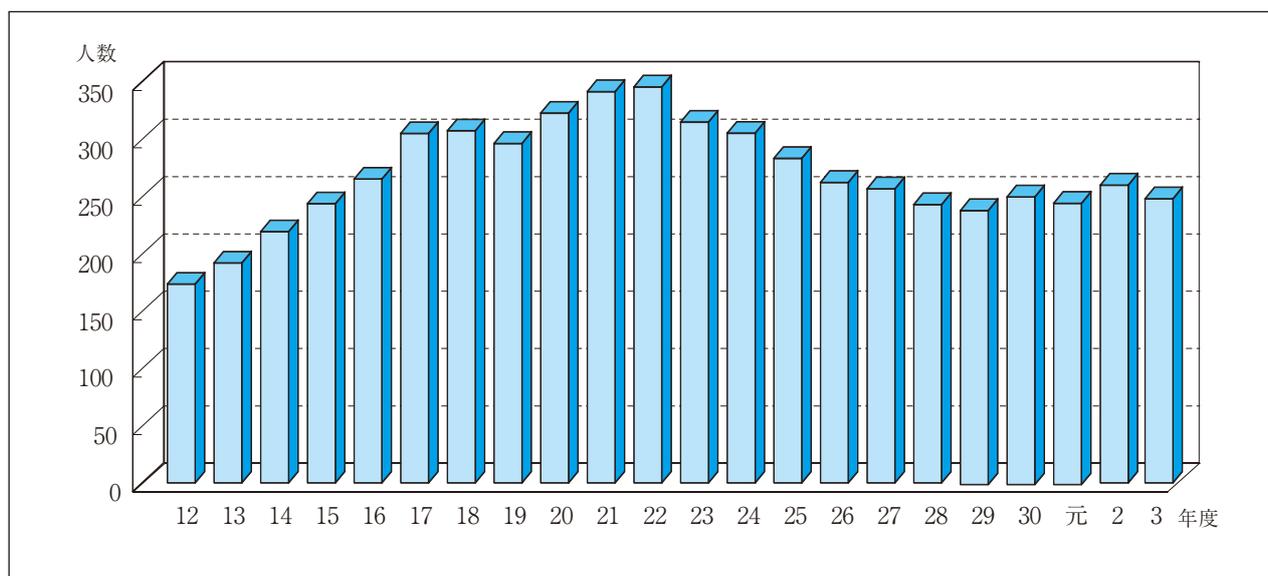
大 学 名	国(地域)名	本学の締結部局	区分	年度				
				H29	H30	H31	R2	R3
国立暨南国際大学 (人文学院)	台湾	国際学部	受入	1	2			
東華大学	中国	工学部	受入					
龍華科技大学	台湾	工学部	受入		3	3	1※	2※
釜慶大学校	韓国	国際学部	受入	1	2	1		
イルクーツク国立大学	ロシア	国際学部	受入			4		
キングモンクット工科大学トンプリー校	タイ	農学研究科	受入					
斉齊哈爾大学	中国	国際学部	受入	2	2	2	2※	2※
ダマスカス大学	シリア	国際学部	受入					
華南農業大学	中国	国際学部	受入					
セントラル・ランカシャー大学	イギリス	国際学部	受入	1	3			
国立台北大学	台湾	国際学部	受入		1			
コリマ大学	メキシコ	国際学部	受入		2			
遼寧科技大学	中国	工学部	受入	1	1			
ハノイ大学	ベトナム	国際学部	受入	2	2	2		1※
トリア大学	ドイツ	国際学部	受入		2	2		
華東理工大學	中国	工学部	受入					
国立暨南国際大学 (教育学院)	台湾	国際学部	受入	2	1	2		
ペラデニヤ大学	スリランカ	国際学部	受入					
ガーナ大学	ガーナ	農学部	受入					
ブルサ工科大学	トルコ	農学部	受入					
東フィンランド大学	フィンランド	工学研究科	受入					
ランブンマンクラット大学	インドネシア	農学部	受入			1		
カンボジア王立農業大学	カンボジア	農学部	受入					
トリサクティ大学	インドネシア	地域デザイン科学部	受入					
ラオス国立大学	ラオス	農学部	受入					
ベトナム国家農業大学	ベトナム	農学部	受入					
モンゴル科学技術大学	モンゴル	農学部	受入					
タマサート大学	タイ	国際学部	受入				1	
ノアカリ科学技術大学	バングラデシュ	工学部・工学研究科	受入					
上海交通大学	中国	工学部・工学研究科・地域創生科学研究科	受入			1		
コンケン大学	タイ	農学部	受入					
合 計				10	21	18	4	5

注 ※は、オンラインで実施。



(3) 留学生数の推移

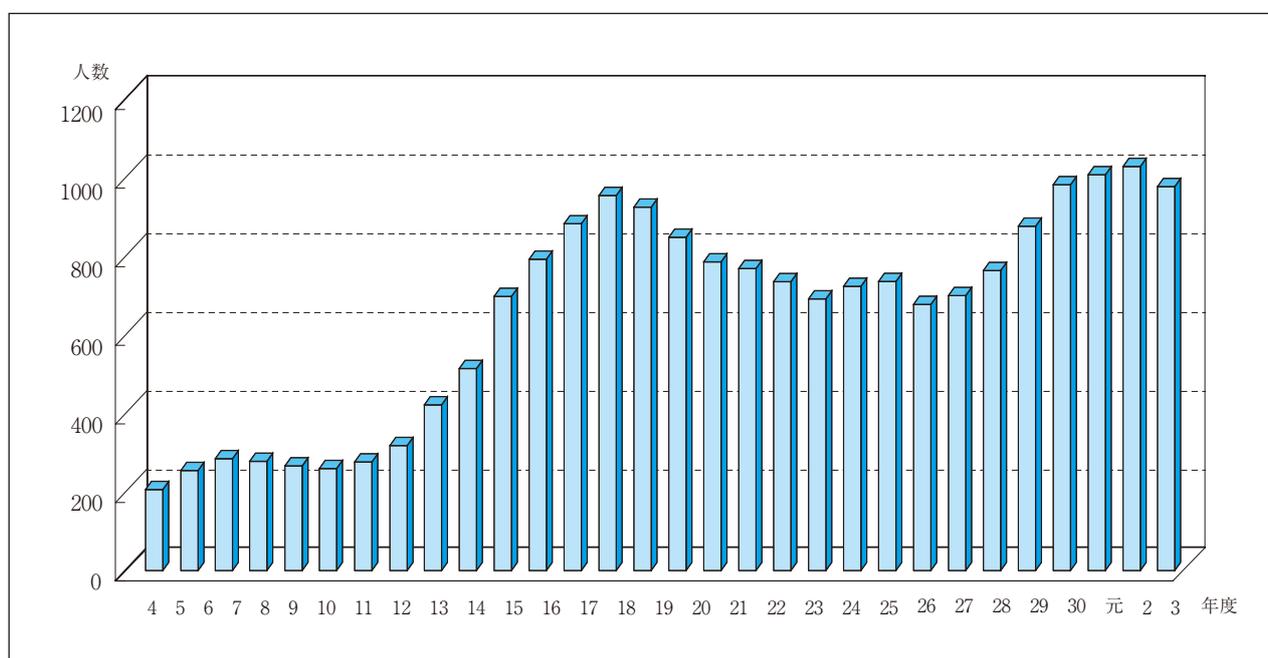
[各年5月1日現在]



年度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3
人数	176	193	221	244	264	303	306	295	322	340	345	313	305	284	263	257	244	237	249	244	260	248

(4) 栃木県内高等教育機関に在籍の外国人留学生数の推移

[各年5月1日現在]

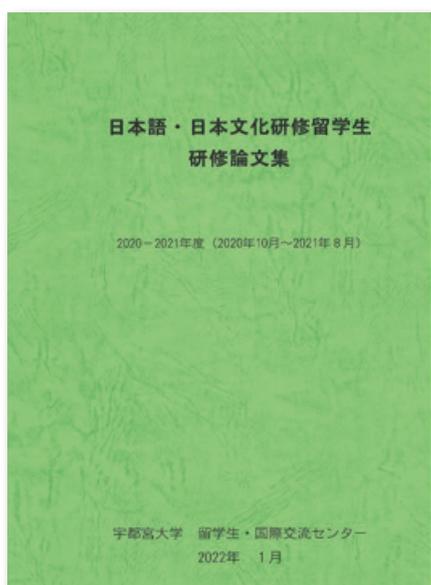
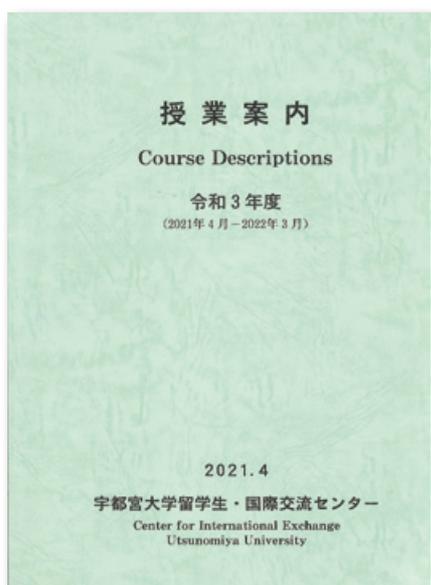


年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3
人数	207	256	286	278	268	263	276	318	422	518	697	795	884	956	928	846	788	768	737	693	722	739	677	703	767	877	980	1004	1030	979

3 留学生・国際交流センターの発行者

本年度は、以下の資料や報告書などを発行した。

- 1) 『令和3年度日本語科目授業案内 (CourseDescriptions)』 (2021年4月)
- 2) 『留学生・国際交流センター年報 2020年度』 (2021年8月)
- 3) 『2020-2021年度日本語・日本文化研修留学生研修論文集』 (2022年3月)



宇都宮大学
留学生・国際交流センター年報 2021 年度

発行日：2022（令和4）年11月1日

編者：宇都宮大学留学生・国際交流センター
（編集担当：湯本浩之・飯塚明子）

発者：宇都宮大学留学生・国際交流センター
＜担当部局＞学務部学生支援課留学生・国際交流室
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
TEL: 028-649-5099 FAX: 028-649-5115
Email: ryuugak1@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp
URL: <http://intl.utsunomiya-u.ac.jp/index.html>

印刷・製本：株式会社アートプレス

